

経大人のための情報誌

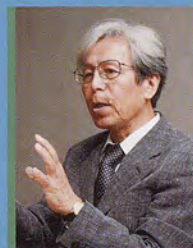
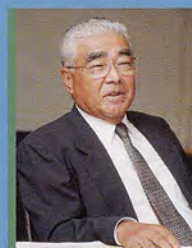
激江

2005年 41号

学長、理事長、同窓会会長による

座談会

ZADANKAI



KITAHAMA CAMPUS REPORT

北浜キャンパスレポート

商都大阪の中心地に、北浜キャンパス開設!!

OB REPORT

OB探訪

(株)カナデン社長 佐田 憲彦氏

富山県出納長 塚原 鐵二氏

滋賀県立八幡商業高等学校 硬式野球部監督 商業科教諭 池川 準人氏

特集！経大大改革！

技術や社会環境の急速な変化とグローバルレベルでの人・モノの交流がさらに加速していく中で、21世紀社会が求める人間力ある人材の輩出は、日本経済に活力を甦えさせるうえでも最大の課題であるといえる。

開かれた大学づくりをスローガンにいかに魅力ある環境を提供していけるかが母校の使命であり、21世紀が求める人材が育つ場でありたいと願っている。今号特集では大学改革についての全容を、座談会で詳しく語っていただいた。また、各界のリーダーとして活躍するOBのメッセージも届けたい。

C o n t e n t s

巻頭特集 創立80周年。生き残りを賭けた大改革

- 3～8 学長、理事長、同窓会会長座談会
- 9 経大スポーツ戦績 摂津キャンパスに人工芝誕生！
- 10～17 支部便り 全国支部からのお知らせ
- 18～26 OB NETWORK 同期生OB会、クラブOB会、ゼミOB会から
- 27～29 ゼミ短信 先生方からのメッセージ
- 30 理事会報告
- 31 本部だより
- 32 事務局だより

新企画 対談：よみがえれ黒正イズム 大森侃二氏、土手勘次氏

- 33～34
- 35～36 北浜キャンパスレポート

経大人特集 OB探訪

- 37～39 (株)カナデン社長 佐田 憲彦 氏
- 富山県出納長 塚原 鐵二 氏
- 滋賀県立八幡商業高等学校硬式野球部監督 池川 準人 氏
- 40 「道理貫天地」小考 徳永 光俊 氏
- 41 パソコン教室
- 42 同窓会個人情報保護の取扱いについて
- 43 学歌、学園歌、逍遙歌

巻頭特集 3p 座談会

総合大学への変革！

競争環境の中、勝組への舵取りについて

対談 33p よみがえれ黒正イズム

今、「道理貫天地」の精神を見直す

キャンパス・レポート 35p 開かれた大学へ

生涯学習の期待に応える、北浜キャンパス

経大人特集 37p OB探訪

各界で活躍するトップクラスのリーダー達に聞く





大阪経済大学理事長
松谷 嘉隆

建学の精神・哲学は 継承するが経営手法は 踏襲しません

**建学の精神・哲学は継承するが
経営手法は踏襲しません**

——まず理事長にお伺いしますが、先の評議員会での就任挨拶の中で「これまでの路線は継承するが、踏襲はしない」とおっしゃられた。何を継承し、何を踏襲しないということですか。

松谷 私が生きていますのは、「本学の建学の精神・哲学、即ち黒正イズムや「自由と融和」の精神など諸先輩方が70有余年に亘って築いてこられた輝かしい歴史と伝統は継承します。しかし、学校運営にかかわる施策は、踏襲しません」ということです。

つまり、本学が誕生して、私の歳と同じ73年を経過しておりますが、この間、日本の歴史は変わり、少子高齢化を始め、21世紀になってあらゆる分野で大きな環境変化が高まっております。身近な所では国立大学が独立法人となり、2005年4月には「私立学校法」が大幅に改正され、大学はますます競争的環境下の経営責任が問われる時代に入り、世界の情勢も大きく変化しました。そんな中で同じ方法でやるといことは考えられないのではないかと。そのやり方を変えなければならぬ。だから踏襲はしませんと申し上げているのです。したがって「道理貫天地」という黒正先生の言葉、精神は継承しますが、その精神を生かすために大阪経済大学が外に向けて発信していくものは、従来と同じ方法ではありません。現在に合った発信方法を執って行きますよと申し上げているのです。

具体的に学校をどう導いて行かれるのか。

松谷 今の大阪経済大学はミッションとビジョンが一緒になっているように感じています。ミッションというのは、本学を将来、80周年あるいは100周年に向けて、こういうふうに持っていきたいという希望・目標であり、それがなかったら何事もできないわけです。また、その目標を持つことはいいことなんです。が、では当面の中期目標をどうするか、それに向けて具体策を考えるの



がビジョンなのです。そして、その具体的なビジョンがこれからの大阪経済大学の経営方針になっていくということです。

例えば、大阪経済大学はマーケットに基盤を置いた実学をキチンと身に付けた学生をいかに世に送り出すか、これが目標なんです。それをするためにどうするか、いろんなやり方があると思います。学長とも話したことです。例えば「英語力の強化」として学生を能力別に3段階ぐらゐにクラスを分けて勉強していたり、だからいろんな方策が考えられます。だからミッションとビジョンをきっちり区分けして、大学から外部に向けて、学生に向けて、あるいは社会に向かって発信していく。つまり、これからの時代に向けて何をやるのか絶えず発信していかなければならないと考えています。

座談会

創立80周年に向けて大学改革を推進 21世紀社会が求める人間力ある人材の輩出へ



急ピッチで進行する少子化の波は、2007年には大学全入時代を迎えると予測され、すでに30%近い大学に定員割れを生じさせているともいわれている。さきの創立70周年という輝かしい歴史の節目を境に、劇的に進展を遂げる我が母校も、21世紀に勝ち残る大学として、さらなる大学改革が必要であろう。そこで昨年11月に選任された重森暁学長、今年7月就任された松谷嘉隆理事長、同じく中平秀賢同窓会会長にお集まりをいただき、生き残りを賭けた、勝組への舵取りについて話し合っていた。

マーケットバリューのある大学に
理事長は野村證券をはじめ実業界で活躍をされてきた。その経営感覚をぜひ大学に注入していただきたいし、皆もそれを期待しております。

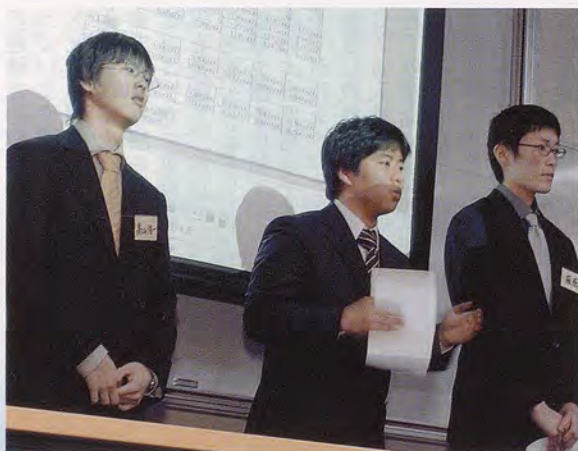
その後を受けて会長に就任しましたが、前会長の基本方針でありました「フェア・オープン・スピード」に、新たに「透明性」を加えて、会員相互の情報の共有化を図って行きたいと思っています。それが会員へのサービス向上に繋がり、ひいては支部活動の活性化に結びつくものと思っておりますが、そうした上で母校発展のための連携と支援を充実させていきたいと考えております。

それから「入口と出口論」で云われておりますが、入試、入学時の大樟教育研究会の活用、インターンシップ、就職支援のための春秋会の活用といったことも、より積極的に展開して行きたい。

その点で、少し申し上げて置きたいことがあります。私は数年前から運動部員確保のため、西日本を中心に各地の高等学校を訪問しておりますが、その際、その地方の同窓生や、大阪経済大学へ学生を送り出している高校でも、本学の実情をあまりよく知らないということに驚かされます。この点を同窓会としても支部活動を中心に見直し、大学側と連携して、情報の発信を積極的にやりたいと考えております。

まず、学校経営というのは、まさに時代遅れの経営をやっているということに驚きました。学内にだけ通用する慣習などがたくさんあって、それを改めることなく過ごしています。これを21世紀に勝ち残るために変えていきたいと思います。これは、ただでさえ変えていくのは経営手法であって、建学の精神は変えてはダメです。よく申し上げています。変えていく段階でいろいろあるかと思いますが、変えることはいろいろあります。改革の基本方針は、学生、教職員をはじめ本学に関係している人達がハッピーライフを送っているにはどうすればいいのかに基本を置きたいと考えております。

そのために何をやるかと言えば、まず組織の見直しです。国の学校行政が変わって、学校法人の自主独立、経営責任が問われる時代に入った今、自分の目盛だけで測ったのではダメなので、世間の評価に耐えられるワールドワイドなメジャーで通用する大学にしないといけない。それはどういう大学かと考えると、おのずから答えが出てきます。だから当面やろうとしていることは、何かと問われれば、タテ系型の事業部的性格の強い組織に、ヨコ系を通す。毛利元就の「三本の矢」じゃないけれど、タテ糸だけでは布は織れません。ヨコ糸を通してはじめて布ができて、その布ができるようになって模様がでる。その模様が世の中で評価される。つまりマーケットバリューがいくらかあるかという評価に耐



えうる大学にしようかと学長と相談しているところなんです。

**大学全入時代に向けて
全教職員が意識改革を**
——この度の組織改革の狙いは教
学部と事務部門との責任体制を明
確にしたということです。
松谷 組織改革というほどのことにはまだ取り組めておりませんが、取り急ぎ事務組織において責任と権限を明確にし、年齢や在職年数、性別にとらわれない適所適材の職員配置を10月1日付けで行いました。今後、教学を含めた大学全体のあるべき組織を追求しなければなりません。



社会・人文系の 総合大学を目指して



大阪経済大学学長
重森 暁

社会・人文系の総合大学を 目指して

いま理事長から建学の精神の流れはいささかも変わっていないし、これからはミッションとビジョンを明確にしていくとお話がありました。これに教学という立場から肉付けしていくのが、学長の役目かと思っております。

重森 具対策に入る前に、今の建学の精神について、ちょっと触れておきたいのですが、私が学長に就任した際に、建学の精神である「自由と融和」「協働」という二語を加えて、学生、教職員、保護者、同窓生が、それぞれ役割を果たしながら、大阪経済大学という一つの社会を支え、社会的責任を果たしていこうと呼び



かけました。本学は2002年を改
革元年と位置付けて70周年迎
えからいろいろな改革に着手し、変革を遂
げつつあります。

具体的な中味で云いますと、2002年に人間科学部を新設し、経済学部
に地域政策学科を設け、2004年4月に経営学部を経営学科とビ
ジネス法学科に分割、2005年4月には経営情報学部をビジネス情報
学科とファイナンス学科に分けるな
ど、4学部7学科という具合に学
びの範囲を広げました。

この間大学院の充実も進んでまい
りまして、2003年4月経営情報
研究科が、2005年4月に経営学
研究科が新設され、2006年には
人間科学研究科が開設されること
になっております。これで4学部にす
べて大学院が設置されるということ
になります。そういう点からして本
学は経済・経営系の単科大学といわ
れてきたのですが、4学部7学科を
持つ社会・人文系の総合大学として

の発展を遂げつつあるといえましょ
う。

これまで企業の側からも、また高
等学校の側からも、大阪経済大学と
いう名前が示しているように、経
済・経営系の大学というイメージが
あるわけですが、それにとどまらず
に、それを生かしながら総合大学を
目指す。その総合大学ですが、沢山
学部があればいいというのではな
く、それぞれの学部が有機的に繋が
っているというのが大事なんだと思
います。

たとえば、新たに学部を作るとし
て法学系がいいと言われていますが、
経済・経営系の科目とリンクしたよ
うな法学部というものをつくれな
いかと考えています。

いずれにせよ、経済・経営系の良
き伝統を生かした総合大学を目指す
というのが、80周年に向けた展望と
いうことになります。その中からさ
らに長期の見通しということになる
と経済・経営系の中から理工系の学
部の必要性が生まれてくれば、いよ
いよ名実ともに総合大学ということ
になるでしょう。

**母校発展のための
連携と支援を充実**
——理事長、学長から本学の進む
べき方向を伺いましたが、同窓会と
してこれにどう対応していくべきと
お考えですか？
中平 この7月から田中富三前会長



大阪経済大学同窓会会長
中平 秀覧

母校発展のための 連携と支援を充実

に、国際社会に開かれた大学への取り組みにも大いに協力させていただきま。

松谷「灘江」を通じて同窓生の皆さんにぜひお伝えしていただきたいことは、ようやく大阪経済大学が立ち上がりかけたということと、さらに学長が「協働」という言葉をおっしゃられたが、これが基礎になるんだということ。「協働」ということは、先生は教えていられないんだということでは済まされなくなつたということ。現場に密着したいろいろなことに取り組んでいただく。職員も単なるワーカーではなく、クリエイティブしていくビジネスマンに変化していく。同窓会も従来のように支部総会で一年に一回顔を合わせて一杯飲むというだけではなく、もう少し分

これからのレストランは人気のメインディッシュを持つていないところは取り残されてしまうと言われています。大学も同じだと思いが、経大のそれは……

重森 一言で言えば人間的実学教育ということになるでしょうが、とりわけ力を入れているのが一人一人の学生と向き合い、入学から就職までのサポートをするキャリアサポートシステムです。さらに体験型教育を重視しておりインターンシップは、今年208団体、444名が参加、なかでも中国企業へ10人ばかり学生を派遣しました。また資格取得講座についても35の講座に1000名ほどの学生が参加するなど、スペシャ

科会的活動をやつてもらつたらいいのではないのでしょうか。つまり時代の変革に合わせてそれぞれの組織が外部に向つて、あるいは内部に向つて発信していく姿勢、この芽が大阪経済大学に漲りはじめたんだということをお願いしたい。我々も頑張りますので、皆さんも応援して下さい。

——そうすることが理事長が言われる勝組に残るための方策ですね。

松谷 生き残るだけならいくらでも方法はあります。たとえば、学長も私も任期の3年間何もしなくても、この学校はなくなりません。しかし5年先大阪経済大学が存続しているかといえば、そりゃわかりませんよ。要は生き残るんじゃないって、勝ち残るんですよ。

リストの養成にも力を入れていきます。そのほか人間的実学という面では、ゼミを通じて人間的な教育をやり、市民としての良識を持った人格を形成するマナーアップにも取り組んでおり、こうしたこともメインディッシュとして大切にしていきたい。

最後にになりましたが、北浜に大学院キャンパスが誕生した。関西の金融、証券のメッカに進出したということ、経大の評価は一段と高まったといえます。ただ、学生の確保など今後の運営面が大変だと思ひますが……

重森 経済界のトップリーダー約90名を学外講師に招くとともに、来年度から3つの研究科の先生方が論文指導等にあたる体制をつくりました。

黒正塾などは同窓生にも参加できそうな講座が沢山あります。もつとPRをされては……

重森 収支の面で現場は苦労しているようですが、経営全体としてみておりますので心配ないですよ。同窓生の皆さんも大いに参加して下さい。お待ちしています。

——どうも長時間有難うございました。

(司会)同窓会副会長 広報部長 森川義一

重森 本学は黒正博士をはじめとする大学研究者といわれる人々がつづつた大学であり、長い間、学者が運営をしてきました。そういう意味で大学経営という発想の乏しかった時代がありました。それが前理事長の段階できつちりとした経営をして、社会的責任を果たしていくという方向が出てきたと思います。この度新理事長が、さらに民間企業の経営感覚を注入され、大学の経営を改革されようとしています。いずれにしても、大学全入時代を迎えて私は教職員の意識をもっと変えなければいけないと思っています。

これまで、自分の研究をやり、その成果を授業に反映していけば給料をもらえるし、自分の満足も得られるという意識だったんですが、それだけではなくて、まず、入試で志願者を獲得する。それをやるためには学生に付加価値をつけて、学生が望



——さきに同窓会長も触れておられたが、よく「入口、出口論」が話題になりました。約700人の経大卒の教員で組織する大樟教育研究会の組織を、あるいは春秋会というOB組織を活用するといった前向きな姿勢がやはり大学側に不足しているように思いますが……

重森 この数年、入試で志願者が1万3000人を超えたのですが、2005年度はやや減少という結果になり、私を含めて危機感を持つて動向を見ております。このままの傾向を続けるわけにはいきません。なんとか1万3000人台に回復させねばと思っています。そのため学部長はじめ、主だった先生方が高等学校を訪問するとか、高校に対する説明会を増やし、本学に対する要望や意見をしっかりと聞き、これを反映させていく。こうしたことに對して、まだそこまでしなくても、といった考えもあるようですが、とくに高校と

むところに就職させる。こういうことを教職員は心掛けなくてはならない。単に研究・教育という通常のことをやっていただけでなく、学生に對する独自のサービスというか、意識的な努力が必要だと思います。また、職員についても、従来からの仕事をこなしておればよいというのではなく、時代の変化に對して、創意工夫をした新しい企画を考えると、いろいろな提案をすることが必要です。このように教員も職員も大いに意識改革が必要だと思っています。

中平 さきにも申し上げたように、税理士大樟会や大樟教育研究会といった同窓会組織の分野ごとの取り組みはいまでもありませんが、私は支部総会時に地元の学校や企業、つまり入学生生や卒業生との就職先に、同窓会の役員が本学の教職員と一緒に表敬訪問するという活動を、是非実現させたいと思っています。

もちろんOBと学生との対話集会やOBによる職業講座の開催、学生の製造業見学支援、学生奨学論文優秀者表彰といった学校との連携による支援策はこれまで通り展開していきますが、企業社会に、地域社会

同窓会支部総会を 有効活用して

の連携は必要だと思つています。それから就職の問題も、今年から進路支援委員会という組織を立ち上げて、常に就職状況を把握し、教員にその状況を報告し、就職支援を依頼するといった仕組みでやっております。このように教員に對しても入試だけでなく、就職面にも目を配るということをお願いしています。



支部だより

全国の支部会からの活動報告と支部総会のお知らせ



平成17年度支部総会開催
北海道支部

去る10月28日水納敏也同窓会副会長、波根伸俊事務局長をお迎えして平成17年度の総会を札幌第一ホテルで開催しました。今回は支部長が体調を崩されたことに伴う役員改選が行われ、副会長の藤岡忠鷹（24回）が支部長に、世代間の調和を図るために若手の長崎史明（43回）が副支部長に選任されました、よろしくお願いたします。

今年度の行事はゴルフ会と今回の総会ですが、当支部の地域特性で転勤者が多く地元出身者が少ない中で行事参加者を如何にして増やす

17年度の東京支部は多くの事がありました。本学の理事長に井阪健一先輩の後任として松谷嘉隆前支部長が就任され、田中富三先輩も本学同窓会々長を退かれました。後任支部長に（株）ホーチキ代表取締役社長藤本二郎氏（34回）に就任を要請し快諾を得て新しい東京支部の体制がスタート致しました。早速去る10月5日



新支部長と共に!!
東京支部

か、解散後の幹事会で今後前向きに取り上げていこうということになりました。

支部長 藤岡忠鷹（24回）



静岡支部総会
静岡支部

静岡県内から大経大へ進学する人は多くないのが実情ですが、県内には新幹線の駅が6ヶ所も有るとい

雨晴温泉で盛大に開催
富山支部

富山県支部総会は7月9日（土）雨晴温泉「磯はなび」にて開催いたしました。本年度はかつてから要望のありました宿泊を伴う支部総会でした。当日は22名の参加で、若い世代の方の参加が多く賑やかな会となりました。

大学からは高橋 努大学理事、同窓会本部からは神田 博同窓会事務局長代理に大変ご多忙の中ご臨席賜りました。総会は支部長の挨拶で開会し、懇親会は大変盛り上がりしました。今年も支部総会の案内に近況の欄を設けたところ、当日都合で参加されなかった皆さんからも様々な情

頑張れ!! 経大SPORTS!!



～摂津の地に人工芝グラウンドが完成～

2005年9月、摂津キャンパス南グラウンドの人工芝化工事が終了し、人工芝グラウンドが完成しました。（旧名称：江口グラウンド）人工芝敷設面積は14,192平方メートル（参考：大阪ドーム13,000平方メートル）、サッカー、ラグビー等の多目的グラウンドとして使用されます。新たな練習場の人工芝化による一層の活躍が期待されます。



同窓会は経大SPORTSを応援しています!!

平成13年2月に、同窓会内に「体育会連絡協議会」が結成されました。「体育会連絡協議会」は、大経大各運動部のOB会会長ならびに監督を中心に組織され、大経大全運動部が飛躍し得る環境を作るべく、大学への各種要望の提出などの活動を行っています。顕著な活躍が見られたクラブにはお祝い金を出しています。あわせて、同窓会では各クラブへ遠征等の補助金を出しています。

今後も同窓会は様々な形で母校のクラブ活動を支援していきます。



体育会 2005年度主な戦績

合気道部	全日本合気道演武大会	出場
	全国学生合気道演武大会	出場
	関西学生合気道連盟演武大会	出場
アイススケート部	全大阪ショートトラックスピードスケート選手権大会	(個人) 4位、二部3位
アメリカンフットボール部	関西学生アメリカンフットボールリーグ	DIV. II Bブロック
空手道部	全関西学生空手道選手権大会	(個人) ベスト8
	全日本学生空手道選手権大会	(個人) 出場
弓道部	関西学生弓道選手権大会	【女子】ベスト8 (個人) 【男子】決勝進出
	全日本学生弓道選手権大会	(個人) 【男子】決勝進出
	全国学生弓道選手権大会	【女子】出場
剣道部	西日本学生剣道大会	ベスト16
硬式庭球部	関西学生庭球連盟大学対抗戦	出場
硬式野球部	関西六大学野球連盟春季リーグ戦	5位
	関西六大学野球連盟秋季リーグ戦	4位 (個人) 首位打者、ベストナイン、平古場賞
サッカー部	関西学生サッカーリーグ戦	春季2部Aブロック2位・入替戦出場
自転車部	西日本学生選手権大会	6位
柔道部	全日本学生柔道優勝大会	出場
	関西学生柔道体重別優勝大会	(個人) ベスト8、(団体) 出場
	全日本学生柔道体重別選手権大会	(個人・団体) 出場
重量挙げ部	西日本学生ウェイトリフティング選手権大会	(個人) 9位、11位
準硬式野球部	近畿六大学準硬式野球春季リーグ戦	2位 (個人) 首位打者、敢闘賞、ベスト9
少林寺拳法部	少林寺拳法関西学生大会	単独演武男子二段以上の部 (優秀賞)
水泳部	関西学生選手権水泳競技大会	(個人) 200m背泳ぎ優勝、100m平泳ぎ3位、1500m自由形2位、200m自由形優勝、100m自由形3位、100m背泳ぎ3位、200m平泳ぎ3位、400m自由形リレー2位、400mメドレーリレー2位
	日本学生選手権水泳競技大会	(個人) 200m背泳ぎ 50m自由形 200自由形 400メドレーリレー 100m背泳ぎ 出場

水泳部	オーシャンチャレンジ in 白浜	(個人) ランスイムラン優勝、アイアンマン優勝、レスキューチューブレスキュー優勝
	全日本ライフセービング選手権大会	(個人) 出場
ソフトテニス部	関西学生ソフトテニス春季リーグ戦	3部2位
卓球部	関西学生卓球選手権大会	2部 (団体) 2位、(個人) ベスト16
	全国大学選抜選手権大会	ベスト32
日本拳法部	全日本拳法総合選手権大会	出場
	全日本学生拳法個人選手権大会	出場
	龍峰杯優勝大会	武段の部 卯月第3位
ハンドボール部	西日本学生ハンドボール選手権大会	3位
	関西学生ハンドボール秋季リーグ戦	2位 (個人) 優秀選手
バスケットボール部	関西学生バスケットボールリーグ戦	2部
バドミントン部	関西学生バドミントン選手権大会	2部3位
バレーボール部	関西学生バレーボール春季リーグ戦	3部3位
ボクシング部	近畿学生ボクシングリーグ戦	3部優勝
	関西学生アーチェリー連盟リーグ戦	【男子】2部Aブロック3位、【女子】2部Cブロック3位
洋弓部	関西学生アーチェリーターゲット選手権大会	30mダブル部門 2位
ヨット部	関西学生ヨット選手権大会	(個人) 国際470級7位、国際スナイプ級11位
	関西学生ヨット春季選手権大会	(個人) 国際470級12位、国際スナイプ級16位
	関西学生ヨット個人選手権大会	(個人) 国際470級8位、国際スナイプ級16位
ラグビー部	関西大学ラグビーリーグ	Bリーグ
ラクロス部	関西男子ユース選抜強化遠征 (ハワイ・ホノルル)	(個人) 参加
陸上競技部	関西学生陸上競技対校選手権大会	総合得点 7位 800m5位、5000m8位、男子2部ハーフマラソン4位、男子2部3000mSC4位、男子2部走高跳1位、男子2部三段跳6位、男子2部砲丸投 (7.260kg) 3位、男子2部円盤投 (2.000kg) 3位、男子2部ハンマー投 (7.260kg) 5位、男子2部やり投2位
	全日本大学駅伝対校選手権大会 関西学生連合大会選考会	6位



全国の支部会からの活動報告と支部総会のお知らせ

報やご意見をいただきました。今後の運営に役立てたいと思います。これからも多数の会員の皆様にご出席をお願いし、活発な総会になるようお願いいたします。

支部長 重松 尚 (23回)



元気な愛知、
念願の田中会長迎え盛大に

愛知支部

愛知支部の平成16年度総会は昨年と同じく名古屋市を中心街、栄の名

古屋国際ホテルで11月6日(土)午後5時半から行いました。今年も本校から樋口助教(学生委員長)、そして同窓会本部から会長就任以来かねて望んでおりました田中会長の御出席を迎え、また水納事務局長も迎え29名で、にぎやかにいうことが出来ました。

第一部は井上武彦副支部長の総合



司会で開会。学歌斉唱のあと支部現況報告と募金支援等の支部長挨拶、ついで「経大の新しい発展を目指して」樋口助教がマナー問題と安全管理等学内問題、さらに当面の課題、北浜キャンパスICカードの活用等々スピーチ。田中会長から母校の発展と充実にあわせフェア・オーブンスピード等同窓会活動の基本理念と母校発展へ前向きな支援の必要、更なる支部発展への期待と激励を頂きました。この後恒例の記念撮影。

第二部は「貴重な体験」と題して五十

十棲保彦氏(32回)が産業再生機構の支援を受けて再生を目指すことになった、厳しい状況を自らの経験で踏まえたミニ講演。その後、参加者の大先輩河盛富三氏(10回)の乾杯で懇親会に移行。会の半ばから自己紹介並びに愛知の経済、近況報告、さらに学校に対しての厳しい質問等もあり各氏の発言で大いに盛り上がりつつ閉会しました。

愛知は目下国内でもっとも元気な産業経済地域といわれ、名古屋企業元気な秘密は？ものづくりの伝統、トヨタイズムの強さは？等々話題を呼んでいます。

伊勢湾、常滑沖に建設された中部国際空港(2005年2月17日開港)。続いて開催された日本国際博覧会「愛・地球博」等々。次回の総会も盛会を今から期待しています。

支部長 明田安生(25回)

お互いの融和と発展を願って

福井支部

今年4月2、3日に福井県の芦原で元理事長鈴木亨先生、重森現学長を迎え、経大大学院同窓の方々も福井支部有志による合同の懇親会が催された。経大の将来を共に語り合う初めての有意義な会合となり、重森学長からは「経大のあり方」についての力強い方針をうかがうことが出来た。

恒例の支部総会は7月16日福井のジャルダンで高橋務理事、水納敏也



参加者募集!!

豊中支部

会員のみなさん、お元気ですか。例年通り各行事を計画しましたので、お気軽に参加してください。

一 秋のハイキング H17・11・20

(日) 保津峡・清滝・嵐山

二 麻雀大会 H18・3・18(土)

於 前衛倶楽部

三 春のハイキング H18・4・9

(日) 醍醐寺・随心院・勧修寺

四 カラオケ大会 H18・5・13(土)

ラウンジ志乃(末広町)

五 ゴルフコンペ H18・5・25(木)

於 ヤシロカントリー

六 ボーリング大会 H18・7・8

(土) 於 ボウル曽根

七 読書会・一泊旅行 H18・9・

2(土) 3(日) 能勢あすかの郷

各行事の日時・場所等が変更する

場合もありますので詳細は事務局

上田敬二郎 06-6831-3984

迄お問い合わせください。

笠井二郎(26回)

来期は「組織と親睦」をテーマ

堺支部

第2回総会は平成16年11月7日午後6時より第1回設立時同様リーガロイヤル堺にて本校より家本修、経営情報部教授の御出席のもと、同窓会本部より事務局長、水納敏也氏、

心も健康に

大阪市役所支部

平成17年9月29日、阪神タイガース岡田監督が、宙に舞いました。2年ぶりのセリーグ優勝を全国の同窓生の皆様とともにお祝いしたいと思っています。ご唱和ください。『阪神タイガース万歳』



さて、昨年の総会は、黒木教授にお越しいただき、心の病、いわゆるメンタルヘルスについての講義をしていただき、その後、教授にも加わっていただき懇親会となりました。非常に好評で、今年もこんな形式でやろうと企画しています。

今、大阪を取り巻く情勢は非常に厳しいものがありますが、ストレスなんかには負けないで、「蔵の財よりも身の財身の財よりも心の財第一なり」と言われるように心身ともに健康な日々を送りたいと願っています。

幹事長 南 正治(43回)



全国の支部会からの活動報告と支部総会のお知らせ

平成17年4月10日午前11時より、関西エアポートワシントンホテルに於いて、大学側より波根伸俊事務局長、同窓会より水納敏也事務局長、堺支部より堀本修支部長、和歌山支部より宇藤支部長、新田事務局長を迎え、約25名と盛大に開催しました。約30分間山本長彦氏通称山長さん（元読売新聞の記者で泉佐野市役所の記者クラブにいた人です）の講演を聞きました。大変身近に感じ良い講演だったと思います。又今回衆議院に当選された松波健四郎先生も出席されました。泉南支部に初めて出席した26回卒の川岸君も今後毎年出席しますとのこと。楽しい時間が過ぎるのが速く又来年会いましょうと別れました。年末には忘年会も

泉南支部総会

泉南支部

せ、大学の入口、出口に向けた支援活動を積極的に展開しなければならぬと思う。今後とも同支部のご活躍を期待しております」との挨拶があった。

尾上三郎氏（22回卒）の乾杯の音頭で始まった懇親会では、参加した51名の同窓生が久しぶりの再会を喜び合い、興梠政則氏（25回卒）のユニークな開会の挨拶後、あちこちで懇談の輪が広がっていた。

「写真は同窓会出席者と同窓会旗」

支部長 堀本 修（24回）



大阪経済大学同窓会 尼崎支部

開催します。

支部長 車野修三（27回）

平成17年度尼崎支部総会

尼崎支部は平成17年度支部総会を4月26日に尼崎市の「ホテルニューアルカイック」に於いて開催しました。来賓として高橋努理事、水納敏也同窓会事務局長、神田博事務局長代理、山本晴義元学長の御出席と会員39名の参加がありました。

昨年（平成16年）の11月20日（土）午後6時30分から甲子園球場に隣接する「ノボテル甲子園」を会場とし同窓会西宮支部平成16年度総会を開催しました。来賓として同窓会本部から小谷芳男総務部長様、大学側ご代表として田村正晴事務局長様、また、同支部の顧問をお願いしております内海健一先生、中川時雄先生のご出席いただき、そして同窓諸兄41名の参加を得ました。中山隆前支部長（15回卒）に永年支部長を努めていただきその感謝の意を込めて記念品の贈呈の後、支部総会議案として今日の「西宮支部」の名称を「阪神支部（西宮・芦屋・宝塚）」と改正を承認されました。全国の支部の同窓諸兄にはご承知をお願ひ

同窓会支部名の改正

阪神支部

総会は支部長挨拶の後高橋理事、水納同窓会事務局長より御祝辞をいただき、会計報告を行いました。

懇親会は山本元学長の乾杯にて始まり、楽しい時間を過ごしました。最後に平沼副支部長の万歳三唱の後に学歌を熱唱して今後の同窓会の発展を願ひながら散会しました。ここ数年参加人数が伸びていまして、来年はより多くの方の参加を期待しています。

支部長 小谷芳男（24回）

和やかに支部総会を開催

17年度、明石支部総会は9月3日、西明石キャッスルプラザにて33名の出席をもって開催いたしました。同窓会から水納敏也、森川義一両副会長、大学から梅原英治理事にご参加いただき、短い時間でしたが、和やかな時間が過ぎましたことを皆様



支部長 進木伸次郎（33回）



事務局長代理、神田博氏、泉南支部長、車野修三氏、4名の方の御出席のもと総出席者57名の参加者のもと総会を開催する。

第2回より堺市に隣接している富田林市、河内長野市、高石市、和泉市、狭山市、南河内郡等の市町村の

卒業生仲間にも声を掛けさせて頂きまして開催を致しました。

第一部の総会は恒例により支部長挨拶、合計報告、合計監査承認、水納事務局より同窓会の現状報告等あり、参加者会員より拍手でもって第2回総会を無事に終了致しました。

支部長提案により堺支部長より70周年記念募金活動の説明があり会員より最低1000円でも良いので協力要請あり、募金箱に数十名の募金者があり本部に報告。

第3回より支部会のテーマを「組織と親睦」にする事の賛同もあり、又、年1回の総会で親睦を深めるのもよいがゴルフ、旅行会等を作りもつと親睦の機会を作ろうと全員に申込書を渡し、親睦会同行会を作る事に賛同し、今後の支部内の充実を図る事に全員賛同し、今期より親睦会活動を通じての更なる活動を期待。

続いて第2部より本校経営情報学部、家本修教授の、「癒しの環境と情報」について講演を拝聴し、全員がもつと時間を取って話を聴きたいと思っていたが、残念ながら次の予定時間もあり講演は次の機会に続きを拝聴する事にしました。

第3部の懇親会も1時間30分、時間の経過も忘れ第3回総会には全員同窓生を数名同伴して参加すること約して総会は終了しました。

支部長 堀本 修（24回）

平成17年度堺支部総会

堺支部

第3回堺支部総会が11月20日（日）堺市の堺リーガロイヤルホテルで開催され、まず挨拶に立った堀本修支部長（24回卒）は「同支部とは直接関係はありませんが、私がOB会長をしております本学陸上競技部が、このほど開催された西日本大学選抜びわこ駅伝で9位に入賞した。前年度の4位から後退したが、沿道の方から大経大頑張れと声援を送っていたいた時には感動しました。今後ともいろんな意味で大経大の頑張りを期待したいものです」と、近況報告があり、続いて中坪健治事務局長（41回卒）から事業・会計報告ならびに新調した同窓会旗の披露が行なわれた。

続いて行なわれた来賓挨拶では、まず重森暁学長から「2006年度からの3カ年計画として幅広い企業人、職業人を育成するため人間的実学教育を推進し、経済・経営系大学の伝統を生かした社会・人文系の総合大学を作り、そして企業社会・地域社会・国際社会と連携した社会貢献に、また本学の教育理念である自由と融和に協働を加えた大学運営という4つの基本目標を掲げた。これを実践し教育力、就職力、経営力の強い大学となるよう理事会、同窓会と一体となって取り組みたい」と、



力強い挨拶があり、水納敏也同窓会事務局長からは「先行き大学の入試状況が気かりである。関西以西の同窓会を訪問して感じることは、今後地方からの入学希望者を多くは期待できない。それだけに堺支部のやうな大阪近郊の支部活動を充実さ



全国の支部会からの活動報告と支部総会のお知らせ

8月27日、東正朗大学理事総務部長様、陰下同窓会相談役様、岡山支部小野支部長様、塩尻常任幹事様にご出席を頂き、過去最高の30名の参加を得、盛大に開催できました。(初参加は46期の綱島英夫さん、48期の井戸真介さんです)
昨年に引き続きゴルフコンペを開催9名の参加、残暑を忘れスコアーは別に頑張つてくれました。



津山支部総会の開催報告
津山支部

に感謝いたします。
佐藤武司支部長挨拶の後、ご来賓の皆さん方から御祝辞をいただき、毎年恒例になりつつある、ビンゴゲームでは豪華景品をめざして、会場がおおいに盛り上がりしました。
学歌、逍遙歌も応援団OBの指揮のもと、全員で声高らかに歌うことができました。今回は、初参加の若い人が数名あり、大変うれしく思っております。今後とも多数の参加を期待しておりますので、よろしくお願ひいたします。
吉本明浩 (41回)



蛸料理に舌鼓

淡路島支部

平成17年度淡路島支部総会は、9月10日(土)に江戸後期の豪商で北前船で兵庫と北海道との交易に貢献された高田屋嘉兵衛翁生誕の地、津名郡五色町(平成18年2月11日に洲本市と合併し新生・洲本市となる)にある料理旅館「川長」で23名の出席を得て開催しました。
当日は来賓として同窓会本部から小谷副会長、大学から八木田教授をお迎えし、母校の現況等について詳しくご報告をしていただきました。



今回ご報告していただいた内容が、大学生に残りのために受験生、学生の獲得に必死になって取り組まれていること、卒業生の就職先確保のため大学、同窓会本部が一体となって取り組まれていること等であったことから、各々に協力できることがあればお役に立ちたいという気持ちを感じとられました。
総会終了後懇親会に移りましたが、今回の会場が蛸料理で名高い料理旅館であったことから、蛸づくしの料理に舌鼓を打ちながら、時の過ぎるのを忘れ楽しく愉快に懇談することができました。
懇親会の締め括りに学歌、逍遙歌斉唱後万歳三唱をし、次回の再会を期して散会しました。
次回もより多くの方々のご参加を楽しみに企画したいと考えていますので、同級生、先輩、後輩をお誘い合わせのうえご参加下さい。
副支部長 赤松慶久 (37回)

同窓会岡山支部総会

岡山支部

今年も大学の教育懇談会の前日平成17年7月9日(土)に、岡山支部総会を開催しました。例年同じ顔ぶれの方が多く、20年以上振りに出席された方が数名おられました。大変喜ばしいことでした。ただ、ここ1、2年前の卒業生が出席してない



のが淋しいかぎりです。今の風潮でしょうか。大学を出れば後はどうでもいいという感覚でしょうか。
ある会員の要望ですが、ここ数年移りゆく大学の様子、並びに、昔乗り降りした上野駅の駅等、ビデオに取り、久し振りに同窓会へ来られた方々に紹介すれば、嬉しく素晴らしいことではないでしょうか。最後に、来年の支部総会を、平成18年7月8日(第二土曜日)に決定しております。
支部長 小野 隆 (35回)

最後に、今回も陰下相談役と一緒に参加の荒木、福田、松原各先輩の皆様にご参加いただき、感謝を申し上げます。
来年も多くの皆様の参加を得て盛大な会にしましょう！
支部長 竹本 巧 (37回)

広島支部総会

広島支部

10月22日土曜日広島国際ホテルにて第63回広島支部総会を開催しました。当日は、大学から北村副学長、同



窓会本部からは中村副会長、大畑常務理事が来賓として出席されました。学部新設や入試改革、教育改革そして、経営改革に向け取り組んでいる母校の現状を伺いました。学生時代に通った学び舎が建て替えられ少し寂しくもなりましたが、進化していく母校を想えば頼もしくも感じられました。和やかな歓談の後、全員で学歌、逍遙歌を声高らかに歌い、来年また会うことを約束し散会しました。
飯田 徹 (57回)

2年ぶり山口支部総会開催

山口支部

山口支部総会は、開催事務局の都合で昨年の開催はパスし、今年度は10月15日(土)、新山口駅前の山口グランドホテルに会員約20名と大学からは高橋理事、同窓会からは小谷副会長のご出席を頂き開催致しました。各同窓会支部共通の悩みは、当支部も同様で会員の出席者確保が事務局の頭痛のタネのようです。
席上、高橋理事から山口県からの受験者状況の報告がありましたが、昨年度山口県内からの母校受験者は26人、合格者はわずか4人。倍率は6.5倍。この数字に喜んでいいのやら。もっと受験者そのものを増やさなければ、という気持ちで複雑です。近く、県内の高校を担当者が訪問さ



れるようですが、その際は、協力を惜しまないつもりです。
会員の中で岩国市役所の大伴総務部長は岩国市が先の台風で大きな被害を受け、未だに復旧に向けて陣頭指導にあたるため欠席。出席者の中では岩村氏が再度宇部市議会議員に就任されたのを始め、宇部商工会議所副会頭で「おしゃれのデパートえむら」チェーンを鹿児島まで展開する江村氏が現役に混じって活躍中。また、山口大学副学長の坂手氏は来年3月で退官、その後は関西の私立大学へ移れることが分かり、



支部役員会活動の現状報告

宮崎支部

宮崎支部では、支部活動の強化こそ母校、同窓会発展に繋がると考え、定期的に役員会を開いています。議題は、支部独自の問題や母校、同窓会への協力態勢に関する事です。その主なものは、フリーマーケットへの協力、OB在職高校へ入試部から関係書類を送送していただく手だ

こうした有能なOBを母校へ迎えて頂けないのか、貴重な人材の流出に支部全員から惜しむ声がしきりです。
支部長 小林真人(32回)

22年目！来年こそは！

愛媛支部

現在、県下同窓会員は約600名いる。支部総会に、せめて10%の方を集められないものだろうか。つねに話題となる。知恵を絞る、策を講じるが、うまくいかない。



今年の役員改選も終わり、22年目もほぼ創立当時のメンバーとなった。今や全国支部長会の名物男でもある小野支部長の発案で、役員が1名ずつ誘って参加者を増やそうということが功を奏してか26名が集い、当日は同会場場で教育懇談会があり、北村副学長ほか7名の大学関係者、津秋同窓会副会長のご出席を頂き、いつまでも、いつまでも話題が途切れることなく、実に和やかな総会であった。

真鍋一美(32回)

硬式野球部高知合宿の応援

高知支部



今年も2月28日から高知東部球場に於いて春季キャンプが行われました。同窓会有志から差し入れやオーブン戦の応援審判等のお手伝いを行いました。
支部長 野崎邦男(32回)

北九州支部同窓会

北九州支部



今回北九州支部同窓会に植田支部長急遽欠席の為、副支部長河野が報告させていただきます。
北九州支部同窓会開催に際し、北

今後の活動予定

大分支部

大変ご無沙汰致しております。大分支部です。昨年の11月に第1回目の支部総会を開催し、現在2回目にむかつて頑張っております。

昨年もそうでしたが、なかなか総会の日が決まらず皆と連絡を取り合っている今日このごろです。

支部総会の予定は、11月に予定しております。昨年の人数よりできるだけ増やすことができる様に頑張っております。どうぞよろしくお願い致します。

支部長 寒田 陽(40回)

青春のサウンド

熊本支部

支部長 大盛豊一(23回)

昨年、福岡にて開催した全九州合同支部総会を成功裡に終え、今年度より各支部間の交流の活性化を願い、北九州及び大分支部に呼びかけを行った結果北九州より5名の参加を得て総勢21名、玉名温泉にて一泊二日の支部総会を開催しました。
福岡在住の河野氏(28回)率いるDSOバンドの永遠の青春サウンド生演奏約30曲、参加者全員忘れられぬ夜となった事でしょう。

また、愛媛支部の小野支部長も遠路参加頂き、併せて厚く御礼申し上げます。懇親会の最後に元陸上部主将佐々木君(63回)の「見上げてごらん夜の星を」生オケにて終了し、翌日は有志による懇親ゴルフで本年の総会を無事終え来年の再会を約し

て散会となりました。本年都合により参加出来なかった同窓生諸士の積極的な出席をお待ちしております。
支部長 演 忍(35回)



沖縄での会が実現へ

南九州支部

南九州支部創設以来の念願でありました、沖縄での大会が、この瀬江が届く前の11月5日に開催されました。沖縄在住の皆様、全て連絡が取れなくて申し訳ありませんでし

た。単身での在住や、転勤の回数が多さなどで大変苦労をしましたが、同窓生あつての大学ですし、大学あつての同窓会です。出来る限りの方法で、現住所の変更を本部又は支部にご連絡下さい。大学の発展と維持は受験生の確保でもありますので、一同団結して大学の宣伝につとめ、未来への夢をつないでいけるよう努力したいものです。南九州支部は、鹿児島と沖縄ですが、日本一長いエリアをもつ支部ですから、問題が多いので、多くの先輩諸氏の応援をお願い申し上げます。

支部長 前蘭博隆(34回)



第31回九友会尾道で開催

九友会

第31回九友会を平成17年4月4日、5日の両日に互り観光地尾道千光寺山荘で開催致しました。

案内総数50名内34名より返事あり出席8名、体調不良にて欠席の通知26名、音信不通16名。

出席者中2名夫婦同伴にて計10名にて桜万開の下での予定が、開花が遅れ蕾の桜の許での会となりました。

ここ尾道は目下戦艦「大和」出撃沈没60周年を記念して、海を隔てて、目の下に見える日立造船向島工場のドックヤードに「大和」の甲板を造り映画の準備が進められ、夜はクレイン台5台に五色の照明をあて、ファンタジー



を演出しています。

出席者は美しい景色を眺めながら、戦時下の上新庄の島の中にボツンと建った昭和商の建物、講義の模様、教授の熱弁、部活動、校内食堂、繰上卒業生の軍隊の初歩兵、幹部候補生、任官、野戦を駆け巡った思い出、親しい学友の近況等の思い出等に花が咲き賑やかな笑聲で遅く迄、酒を酌みかわしました。

卒業より62年経過、年齢も80才を超え、体調の不調に悩まされ会出席が困難となつて参りました。

今後の九友会の開催について見通が立ちませんので、大阪在住の方にお願して今後の運営をお任せする事に決めた学園歌を合唱して会を終了しました。最後に九友会の方々のご健康と大阪経済大学の発展を祈念して報告に代えさせて頂きます。

和泉良映(9回)

同期生会運営について

第11期生会

平成17年度の第11期生会は、8月6日大学より波根事務局長、同窓会より水納事務局長を迎え開催しました。

昭和23年10月桑津昇さんの元気な時の発想により宝塚「相生楼」において同期生会を盛会に発足以来、35回を重ねてきました。しかし大正時代に生まれた私達は、体調を崩した同期生が殆どであることを踏まえて会合の席上、今後、同期生会の運営について皆様からの回答が、存続5通、廃止に同



意34通外は回答なしであることを報告しました。その結果次回からは、毎年大学で開催される同窓会総会(毎年11月第2日曜日)終了後、居残り歓談することになり従来の同期生会は廃止と決議されました。従って元気な方、体調が少しでも回復した方は、大学の同窓会総会でお会いしましょう。元気で動ける時、年に一度青春時代の思い出話を語り合いたいです。

筒井英夫(11回)

ほほえむ蕾に迎えられる

ひとみ(13)回

今年は大阪の番よと言われ、平成17年4月1日(金)帝国ホテル22階にある「アポロンの間」に集い、ひとみ会を開催しました。

眼下には、大阪城が盆栽のように見渡せて、周りには高層ビルが林立し、いかにもそれを見守っているようでした。

同窓会本部からは事務局長代理神田博様(30期生)がご出席下さり、黒一点として会をひきしめて下さいました。卒業後初めてという近藤美那子様が娘さんとご夫妻に付添われて、車椅子を巧みに操作して曾根幸子様など出席者41名。年月の重さをひとしお深く感じた同期会でした。会食後、三々五々、水上バス「遊覧船」に分乗して、大川を一周、開花にはちよつと幼い蕾たちに、ほほえみかけられての一日となりました。

前田悦子(13回)



平戸・杵岐の旅

十四期生同期会

1人ではいきにくい所へ行こうと今年は平戸・杵岐を選び、総勢13名は11月12日伊丹空港を飛び立った。隠れキリシタンで有名な平戸ではキリシタン弾

第16・18回卒業生の集い

16・18回同期会

庄の史実を残す資料館を見学、教会の塔がそびえる周囲を寺院数社が囲む珍しい景色が、当時キリスト教より仏教の偉力を示すための史実を知る。17世紀はじめオランダ貿易が栄えた時「ジャガタラおはる」の悲しい恋文の原本も見た。

稲山君子(14回)

毎年5月の連休明けを定例日として長年この会を続けて開催してきたが、「瀬江」の寄稿には毎号参加者数、顔ぶれの固定化を嘆いていた。今年こそはこれらの傾向を少しでも打破しよう、①一泊原則から日帰りとし、昼食会とした。②集まりやすい交通至便の大阪市内に会場を設定、宿泊可能とした。その結果、参加者数19名、(初参加、久しぶりの参加各1名)であったが常連で所用、体調不良などの理由で参加できなかった人を算入するとまずまずであったと思う。ただ、残念なのは相変わらず38%の無返信。(出状135、無返信51)

1、日時 平成17年5月9日(月)
2、会場 大阪城前
「シャトーテル 大手前」

酒井克己(16回)



卒業して半世紀！50周年同期会に27人、元気で

第21回生同期会

昭和30年(1955年)に卒業して半世紀、50周年記念同期会に東京、島根県と全国から25人が参加。2005年10月29日(土)定刻12時秋雨爽やかな中、会場は大阪梅田の浪漫クラブ「些」での同期会、2年振りの集いで諸兄お元気。松村英二君の司会、笹井誠君の開会挨拶。ご来賓に21回生在学中苦楽を共にした元事務局長の田所清市さんと同窓会副会長24回生の小谷芳男さんをお迎えして、半世紀の回想、齢70歳余の現在の事など時間を忘れ歓談楽しい時

23期生の集い

23期生会

今年で連続21回目の集いとなりました。出席者は30名です。初出席は富永氏で大変嬉しく思いました。その他久しぶりに出席された方もおり、卒業して48年になりますが、皆元気に参加されました。同窓会よりは水納事務局長をお迎えして、学校と同窓会の現況についてお話し頂きました。その後皆で楽しく語りました。全員古稀を迎えましたが、その中で健康第一と云う事で趣味を生かし、友人と話す機会を多く持つよう



を過ごしました。参会の諸兄を左記に
秋山井崎・糸井・尾崎・岡野・小崎・笹井・重久・新堂・田中・清水(庄)・清水(二)・中村・野崎・松浦・松村・三上・宮原・村上・保野・山口(平)・山口(義)・山崎・和田・他
松浦正之(21回)

経大26会の皆さんお元気ですか

経大26会

卒業後45年が過ぎ、平均年齢も70才に近づいてきました。
去る5月26日(水)に第3回の例会を昨年と同様に大阪道頓堀「くだおれ」で開催。出席者は前回より減りましたが初めての方が5人もあり、なごやかで楽しいひとときでした。開催日を毎



にしているのがよく解ります。和気あいあいの楽しい一日でした。尚、当日都合悪くて出席出来なかった人達も、来年は是非出席して下さい。来年は22回目になります。2月の第3日曜日を予定しております。皆様の元気なお顔を拝見したくお待ちしております。
酒井弘光(23回)

年5月26日に定着して、当日が金・土・日・祝日となる場合は前へ繰り上げて週日に行いますのでご了承ください。

次の第4回の例会については、11月13日(日)の同窓会総会のあと、出席者が参集して開催日や日帰り旅行、一泊旅行などを視野に入れて検討をしたいと思っております。

次回はゼミ単位、クラブ単位でお誘い合わせのうえ是非ご出席をいただきますよう期待しております。

笠井二郎(26回)

澁江二十七期会集う

澁江二十七期会

大阪東急ホテルにて27期会の同窓会を平成16年10月22日金曜日に行いました。卒業して44年が経過致しておりますが毎年角本喜八朗大兄のお蔭で東急ホテルにて総会を開催しております。磯野齊元同窓会々長始め岡本昌夫先生同窓会より水納事務局長同期生15人で楽しい一時を過ごしました。皆様の多くは企業を退職し悠々自適に余生を送っている方、又他企業の役員を努めている方と多種多様であります。和気藹々の内に時間が過ぎて行きました。澁江27期会は磯野先生の指導を受け素晴らしい人材が多く存在しております。今後の再会を約束し約3時間に亘る同期会を終了しました。来年も10月の第3金曜と約束し解散致しました。

車野修三(27回)

二十九回卒は活発学生

29回卒懇親会

時代は政治の季節でしたが社会構造は経済の高度成長期への端緒を開きつつあり、混沌としていたが夢のある頃でした。経大もまだ牧歌的で先生方も職員の方も学生も思えば人間味溢れる頃でした。

29回卒は比較的活発な学年でした。自治会の再建、体育、芸術、学術会の興隆、生協の設立と安保のデモの中核かと思えば軽音の地方演奏、山小屋の建設、全日本経済ゼミへの進出、古久保先生の指示で入試のための教室の落書きの清掃、人間関係が醸す教育の場であった。その様な風景でした。

今、一生懸命であった仕事の時代を超えてセカンドライフの模索の時、健康な生活と人間が大切、同卒の皆様、北の大地と南の海から母校へ熱い視線を注ぐ。

大門壽郎(29回)

41年振り・初の同期会

第30期生会

8月6日。真夏の一日。初めての同期会が母校同窓会ホールにて開かれた。同窓会本部からは小谷副会長の御来賓を仰ぎ同期生57名の参加者という予想外の盛り上がりで瞬く間に時間が過ぎた。昭和35年入学。60年安保、ローマオリンピック、堀江青年の太平洋単独航海、ケネディ大統領暗殺、黒四ダム完工、新幹線開通、東京オリ



ンピックと続く在学4年間であった。あれから41年。高度成長を経てバブル狂乱。そして崩壊。失われた10年の後には企業合併と大リストラ。次々と来る社会の荒波を何とか乗り切ってきた同窓生の笑顔の何と素晴らしきことか。旧交を暖め想い出話に花が咲き顔を見せない友の噂話に競る顔には大阪経済大学卒という一本の糸がしっかりと織り込まれていた。

神田 博(30回)

クラブ活動に思うこと

マンドリンクラブOB会

私共が活動(72・76年)しているころは体育会系の集まりでした。時代の移り変わりででしょうか今や男性女性半々で存続しています。

継続は力なりの言葉どおり40数年続けられているのはその時々現役が今までの伝統を守り、支えられ時には



合気道部OB・OG、年に一度の合同稽古

気流会

その狭間に苦しみ、皆で協力し、助け合い自分の現役時代が他のどの代よりもすばらしいと自負しながら、活動しているからだと思います。

川口 浩(42回)

わが合気道部は、毎年11月3日を

“氣流会”総会日と決め、母校に集まっている。今年も女子卒業生が、創部40数年の長い歴史の中で初めて誕生した記念すべき年でもある。

数年前より、現役から活動報告を受け、OBの動向を議事するだけでは、物足りない。折角なら親子ほど歳の離れた者が母校武道場に集結し、年の一度の合同稽古をしようということとなった。

卒業後もまだ現役で活躍している者や、ウン十年ぶりに取り出してきたサイズも合わないカビ臭い道着の者、現役から借りた久しぶりの稽古着姿に照れる者、現役を指導するOB達、体は動かないが口は達者。一時半の合同稽古を終え、待ちに待った懇親会は、いつも以上に盛り上がり、現役との交流は楽しいものでした。また来年も元気に会おう！

古谷貞雄(28回)

平成17年度

柔道部OB総会開催

柔道部OB会

去る、平成17年3月20日母校同窓会ホールに於て平成17年度の総会を開催する。当日は愛知県より三輪忠昭先輩(25卒)、東京より橋本志郎先輩(30卒)等々遠方よりの参加を始め各地より73名の参加を得て開催。石橋事務局長の開会宣言と司会が始まり、下垣会長の挨拶、入江前部長先生、萩原大先輩を始め物故者の冥福を祈り黙祷の後、議事に入る。16年度の事



業報告、会計報告、会計監査報告を行い、いずれも出席者全員の異議なく承認された。続いて17年度の事業計画案及び会計予算案について説明があり、原案どおり承認可決する。引き続き現役指導部児玉監督より監督辞任の申し出があり、これを承認すると共に児玉監督より推薦の安田太副監督の監督選任を全員が承認し次期監督として安田太氏もこれを了承する。児玉道憲先輩はOB会常任幹事に選任承認される。選任者もこれを了承する。続いて役員選任があり会計と事務局に各1名を追加、これを承認、選任者もこれを了承する。この後前監督及び安田新監督より、現役の実績報告があり、関西学生大会はベスト8で全国大会出場、関西学生体重別団体もベスト8で全国大会出場、今年度も両大会共にベスト8入り全国大会出場を死守するとの力強い決意と報告とがありました。

現役指導部
監督 安田 太(46回卒) 新任

OB会 役員
常任幹事
児玉道憲(30回卒) 新任

副会計
岩崎 隆(47回卒) 新任

事務長
尾崎義廣(38回卒) 新任

以上で総会は終了し、場所を隣の宴会場に移してOB親睦会及び現役卒業生と新入生の歓送迎会を行う。会長の挨拶の後、来賓の大橋部長先生、西岡師範、同窓会の水納事務局長から挨拶を賜り、島根県より出席の宮原史郎先輩(21回卒)の発声で乾杯を行い、和やかな交流の輪が広がり、時の過ぎるのを忘れる程であった。宴の半ばで現役指導部より卒業生及び新入生の紹介があり、その後今年も昨年に引き続き関西に於けるベスト8を死守し、全国大会に必ず出場するという心強い宣言があり一同大拍手となる。最後に兵庫県より出席された的笠淳先輩(25回卒)より万才三唱があり、学歌、追遠歌、柔道部遠征歌を歌って、中田副会長の挨拶で幕を閉じた。

下垣恒彦(34回)

吉野山に集う

寄多郎会

今年で21年目を迎えた本会は平成17



年10月26日、南朝60年の秘史と古代ロマンを物語る吉野山一帯を散策。午後参加14人全員の入山、一年振りの再会を歓迎、修験道の総本山金峯山寺蔵王堂を参拝、宿泊所竹林院で秋の夜長を楽しむ。当院は秀吉や利休にも縁りある由緒ある宿房で昭和天皇皇后陛下、皇族の方々と同じ極めて格調ある雰囲気の中で夕食、襖絵や掛軸を眺めながら杯を交わし和やかな一夜を過ごした。翌27日は絶好の秋日和となり日本建國期の数多のドラマを秘めた歴史の舞台、万葉のふるさと飛鳥を巡り、高松塚壁画館、石舞台、橋寺、飛鳥寺を見学、日本料理「萩王」にて昼食、来年の再会を約し散会した。超健脚組は有志を募り、橿原神宮を参拝し近鉄電車に乗り込んだ模様です。

辻谷川添岡田・高橋(28回)



感動した故・松本剛教授の十三回忌法要を終えて

一部会計学研究部OB会

去る6月11、12日、有志18名が1泊2日で、貸し切りバスで鳥取県三朝温泉へ向かいました。

初日はOB会総会を開き松本教授が1961年会計学研究部顧問に就任された時から逝去された1993年までの32年間の回顧し、教授の業績や楽しい思い出を語り合い教授を偲ぶことができました。

また、大学創立70周年記念の寄付金は参加者全員の賛同を得て、即刻10万円が集まりました。些細ながらOB会として大学に寄付することができました。

翌12日は鳥根県的美保関に移動して、恩師松本教授の13回忌追善法要をOB会だけでお勤めしました。

追善法要は筆者浄土宗僧侶の読経が始まり、墓前で参加者一人一人が松本教授に思い出や、感謝の言葉を捧げることができ、各人にとっては感動の追善供養となりました。故人もお聴になられていると信じております。

松本教授は大阪経済大学で立派な業績を残されたが58歳というあまりに早い他界は残念でした。

松本教授は誰も書かなかった、侵略者としての日本が中国からおびたしい数の図書を押収して日本へ運び、現地で焼却するなど、中国の文化を破壊してきたという本を書かれました。

著書には昨今、問題になっている歴史文化の理解のない日本が浮き彫りにされております。

松本剛著『侵略と文化 戦争と図書』(岩波書店)は1993年5月刊行されました。

発刊された時、松本教授は大変喜ばれ、病床で贈呈するための宛名書きをされるほどでした。

松本剛教授が逝去される直前の5日間、同年6月13日付けの朝日新聞「天声人語」で本書が掲載され、高く評価されました。

死の直前まで頑張られた偉大な私たちの恩師松本剛教授です。

また、松本教授と神戸商科大学時代下宿を共にされ、教授と無二の親交のあった、現経済評論家として活躍の内橋克人氏が「世界」(岩波書店刊)2004年8月号で連載「荒野渺茫」に

西と東に別れました。

藤原広太郎(54回)

マナー懇談会

体育会連絡協議会

体育会連絡協議会では、04年に始まった大学の「マナー向上運動」に協力して、05年2月10日マナー懇談会を開催しました。対象は運動部の05年度新主将・主務が中心で、運動部部長が率先してマナーを心掛け、一般学生をリードしてほしいというのが狙いであり、願ひであります。当日は体育会本部も初めて体連協の行事に加わり、参加学生数97名。大学からは学生部の樋口委員長内藤次長他、又同窓会からは田中会長等体連協役員を含め約120名と盛会になりました。

シンポジウムにはコーディネーター津組仁志君(日本拳法部49回)・バネリストとして栢本和哉君(ラグビー部60回)・池川準人君(硬式野球部61回)・宇陀武司君(空手道部64回)が参画し、勤務多忙の時間を割いて社会人としての心得を始め色々と後輩の指導に当たってくれました。あらためて感謝致します。

体連協では、この活動を今后毎年継続して行なうと共に、06年からはフレッシュマンキャンプ等を利用して、運動部新入部員との懇談も実行して行きたいと考えております。

運動部OB・OG諸君！

是非今後の懇談会に参画して現役こそ



会長 小山由彦(29回)

同窓教職員集いにぜひ！

大樽教育研究会

今年も7月17日、新装なった母校C館を会場に、重森学長・中平同窓会長、現役学生諸君など多くの方々のご出席を頂き、第5回大樽教育研究会が盛大に開かれた。母校を巣立ち、全国各地で就職関係に就く者7百余名に呼びかけ年1回母校に集い、教育界の諸問題、勤務校での教育実践、個人的な悩みや喜びに花が咲いた。「同じ釜の飯を食った仲」だけに、遠慮のない厳しい忠告、助言が飛び交ったことは言うまでもない。

今年には小・中・高校から4名のすばらしい実践報告があり、非常に高い評価を



平成16年度活動報告

宝塚市役所経大会

会員数は現在34名、何処も同じかとは思いますが当会も高齢化構成となつてきております。

さて、最近の大きなニュースとしては、経大会のメンバーでありました上田氏が当市の助役として就任されたことであり、沈滞ムードを吹き飛ばす嬉しいニュースでありました。

年間の活動としては、定例総会を6月に市内の温泉宿で開催。10月には小旅行「ディープな大阪・南の探訪」と題して、天王寺で昼食の後、有形文化財に指定された美草園の銭湯や近くの府立高校を訪問した後、徒歩で飛

指導のほどよろしくお願い致します。

会長 鮫島 圭(18回)

劇研・中秋の三朝紀行

劇研青春の会

三朝温泉「花屋別館」同窓が営む格式ある館。美人女将の出迎えを受け14期から16期まで男女11名。昨秋、2日の旅を満喫した。筒井・逸見・本田・松本・駒力根・陰下・田中・箕形・伊藤・中村・逢えば忽ち、俺とお前、あなたに私になる仲間。旅が更に解放感を誘い夜更けまで食べたり飲んだり騒いだり皆よく笑った。

翌日は小雨の中を「投入堂」へ出発。見上げると遙か崖の中腹に御堂が見ゆ。荘厳の美、凄く一言皆感動しきり。雨雲が流る――。

午後は台風接近で早目に乗車。14期の2人は別の目的地へ。だが和田山で列車動かず、暴風雨を突いて京都までタクシー飛ばして無事帰京。我々が仲間、何時もピピッドでフラボーな青春です。

中村行男(16回)

OB会再設立総会

体育会ゴルフ部OB会

5月14日新阪急ホテルにおいてゴルフ部OB会を14年ぶりに開催しました。菊川OBが亡くなられた後、休止状態のOB会を泉原OBが監督として現役部員の指導と体連協活動に孤軍奮闘されておりました。そこで飯田紀夫OBの提唱によりOB会の再設立を企画しました。当日連絡数178名の所41名のOBと現役10名、来賓として水納事務局長臨席のもと無事開催する事が出来ました。



遠くは高知県、愛知県からも出席され皆さん30年40年昔の場面を昨日の如く、まるでタイムスリップした気分がでた。青春の一時を一つの事に集中でき、又良い人々と知り合えた幸せを思い次の回の再会を約束して散会しました。

辻井 博(39回)



山小屋45周年記念式典

体育会山岳部OB会 経援会

去る2005年9月18日、紅葉には少し早い長野県白馬経大ヒュッテにて経援会主催による記念式典が開催されました。大学より黒正評議員、鍋島元評議員、内藤学生部次長、同窓会から神田事務局長代理、ワンダーフォーゲル部OB会、そして降旗義道(現地管理人)氏の来賓をはじめ、集い来たOB等は40数名となりました。式典のはじめに学歌、部歌が合唱され、物故者黙祷の後、会長ならびに来賓挨拶をいただきました。当日は十五夜でもありベランダにススキを飾った中、激しく杯が行き交い、何年か前の再会や初参加の顔も交えて話が弾みました。明けて19日は、あいにくの曇り空でしたが、ある者は散策へ、ある者は白馬岳へ、それぞれつきぬ名残を惜しみつつ

マナー懇談会

体育会連絡協議会

体育会連絡協議会では、04年に始まった大学の「マナー向上運動」に協力して、05年2月10日マナー懇談会を開催しました。対象は運動部の05年度新主将・主務が中心で、運動部部長が率先してマナーを心掛け、一般学生をリードしてほしいというのが狙いであり、願ひであります。当日は体育会本部も初めて体連協の行事に加わり、参加学生数97名。大学からは学生部の樋口委員長内藤次長他、又同窓会からは田中会長等体連協役員を含め約120名と盛会になりました。

シンポジウムにはコーディネーター津組仁志君(日本拳法部49回)・バネリストとして栢本和哉君(ラグビー部60回)・池川準人君(硬式野球部61回)・宇陀武司君(空手道部64回)が参画し、勤務多忙の時間を割いて社会人としての心得を始め色々と後輩の指導に当たってくれました。あらためて感謝致します。

体連協では、この活動を今后毎年継続して行なうと共に、06年からはフレッシュマンキャンプ等を利用して、運動部新入部員との懇談も実行して行きたいと考えております。

運動部OB・OG諸君！

是非今後の懇談会に参画して現役こそ



劇研・中秋の三朝紀行

劇研青春の会

三朝温泉「花屋別館」同窓が営む格式ある館。美人女将の出迎えを受け14期から16期まで男女11名。昨秋、2日の旅を満喫した。筒井・逸見・本田・松本・駒力根・陰下・田中・箕形・伊藤・中村・逢えば忽ち、俺とお前、あなたに私になる仲間。旅が更に解放感を誘い夜更けまで食べたり飲んだり騒いだり皆よく笑った。

翌日は小雨の中を「投入堂」へ出発。見上げると遙か崖の中腹に御堂が見ゆ。荘厳の美、凄く一言皆感動しきり。雨雲が流る――。

午後は台風接近で早目に乗車。14期の2人は別の目的地へ。だが和田山で列車動かず、暴風雨を突いて京都までタクシー飛ばして無事帰京。我々が仲間、何時もピピッドでフラボーな青春です。

中村行男(16回)

平成16年度活動報告

宝塚市役所経大会

会員数は現在34名、何処も同じかとは思いますが当会も高齢化構成となつてきております。

さて、最近の大きなニュースとしては、経大会のメンバーでありました上田氏が当市の助役として就任されたことであり、沈滞ムードを吹き飛ばす嬉しいニュースでありました。

年間の活動としては、定例総会を6月に市内の温泉宿で開催。10月には小旅行「ディープな大阪・南の探訪」と題して、天王寺で昼食の後、有形文化財に指定された美草園の銭湯や近くの府立高校を訪問した後、徒歩で飛

田新地(懐かしいでしょ...)へ。

現存する、同じく有形文化財に指定された旧遊郭建物内の居酒屋で鍋を囲み、大いに盛り上がりました。

また、本年2月には「泊で冬の味覚、蟹を楽しむに湯村温泉旅行を実施し、16年度の活動を終えました。

高齢化による出不精で参加人数は毎回少ないのですが、いくつかの企画を持つて、継続することが大切なことだと考えております。

今後は他支部との交流も含め間口の広い活動ができれば、と考えております。他支部のお誘いをお待ちしております。

石田義久(39回)

ついで屋根の下で

摂津市役所経大会

経大会は8月27日、京都亀岡の松園荘にて総会を開催。

所属会員は、職員とOBを含め総勢15名。親睦の目的は、一に親睦、二に親睦、三に気楽な飲み会、三の会、創立20周年。

何と今回は、叙勲者と退職者の2つの慰労会を兼ね、会員全員が祝福に参集された次第。

総会冒頭、幹事の稲森(44回)から経過報告等があり、議事に入りました。会長に埜口(38回)、副会長に中谷(38回)、橋本(38回)が新役員に選出され、新幹事には阪口(39回)が就任されました。その後、温泉浴で日頃の心身の疲れ



をリフレッシュした後、待ちに待った懇親会が始まり、危険業務従事者叙勲(瑞宝単光章)を受賞された石本(31回)、永年勤続退職された中野(40回)先輩の2人には綺麗どころより経大会から花束が贈呈され、盛大な拍手が送られた。祝杯また祝杯と夜の更けるのも忘れ、身も心も満腹した。

ステージショーでは、宮田(32回)木下(28回)、そして宮西(38回)と諸先輩が続々とマイクを握り、一気にカラオケモードとなり、飲み会も盛り上がりました。

翌日は、夏休み最後の日曜日となり、雑踏でにぎやかな京都貴船の川床料理を食するため、老舗の右源太に行きました。盛りだくさんな経大会となり、名残惜しい2日間でありましたが、次の再会を約してお開きとなりました。

長島努(39回)

第1回滝内ゼミ合同同窓会盛大に開催

滝内ゼミ同窓会

平成17年3月19日(土)17時から大阪経済大学同窓会ホールにて滝内ゼミ同窓会を開催しました。滝内先生がゼミを持たれて30年、約300名のゼミ卒業生が社会で活躍されております。

出席者は29名(1期生14期生)。幹事は3名(重田、河本、小西)のメンバーで、開催までの打ち合わせ等で時間が取れず苦労しましたが、同窓生の熱意により何とか第1回合同による同窓会を開催することができました。開会の挨拶、滝内先生のご挨拶の後、会食に入り皆さん久しぶりの顔をみて昔の話で花が咲いていました。その後、プロジェクトにて懐かしい写真紹介



税理士大樟会定期総会及び研修会開催報告

税理士大樟会

第14回定期総会及び第23回研修会が去る平成17年7月15日(金)にハートンホテル心斎橋において開催されました。総会に先立って午後3時より研修会が開催され、大阪経済大学経営学部ビジネス法学科専任講師の藤嶋肇先生を講師に迎え、「商法改正」会社法の制定と会計参与をテーマに懇切丁寧にご教授頂き、抜本的な商法改正を来年度に控え質疑応答も多く大変参考になりました。

午後5時より定期総会が開催され、諸議案すべて異議なく承認可決されました。引き続き午後5時30分より懇親会が行われ午後8時ごろ閉会しました。

堀田 治(48回)

「伝統ある灯」を守ろう

日立大樟会

田中富三先輩は当会(日立大樟会)を立ち上げ多くの私達(後輩)を育成され今日に至りました。それに加え母校70周年の節目に同窓会々長として井阪理事長と共に「ア・ウン」の呼吸で大学改革にも取り組まれ多くの実績を上げられました。中でも同窓会部門では、従来からの活動に加え同窓会便りの新設やホームページの立ち上げと、大樟教育研究会の再編成と、OB

介、歌ナギター演奏など皆さん20代の学生に戻ったかのように賑やかな会となりました。各人の自己紹介では様々な分野で社会で活躍のお話を聞き「さすが大経大卒業生」と感心致しました。ゼミ各期生別でも同窓会を開催する話も飛び出し、今後益々交流が深まることを期待しております。

重田喜生(44回)

白水会の第3回総会が開催

白水会

平成17年4月23日(土)、新設されたB館に於いて白水会の第3回総会が開催されました。この白水会は、平成13年1月27日に渡辺ゼミ・税理研究会合同で設立され、その後2年に一度総会が開催されており、今回は3度目の総会になります。総会では小谷教授の開会のご発声に続き、代表幹事の市原孝志先輩、そして前学長の渡辺教授よりご挨拶がありました。総会参加の記念にと贈呈されました「損益計算の進化」の出版経緯を詳しく説明下さった渡辺教授の「今までの会計史の研究の一区切りとして...」というお言葉が印象的でありました。出版時期が当初の想いとずれてしまいとおっしゃられるお言葉の端々より、学長職の大変さが伝わってくるようでした。渡辺先生3年間本当にお疲れ様でした。引き続き参加者の自己紹介。途中懇親会場へと移動、気がついてみれば、親子ほどの年の差のある現役生達とも自分



と学生の対話集を軌道に乗せパソコン教室の充実や、フリーマーケットの開催等々数多くの足跡を残されました。又私たちに常日頃から「人との縁、出会いを大切にせよ。」と特訓を頂き本当にお世話様になりました。しかしながら田中先輩には今迄以上にタフで思いやりのある生き方を続けて頂き更なるご指導を賜ります様お願い致します。そこで私達後に続く者の使命はこの「伝統ある灯」を消す事なく、今迄にも増して卒業生を跡切れる事なく、一人でも多く日立グループに迎え入れ当会を磐石のものにする共に、更に高めてゆく事を目指して参り度々存じます。

会長 国西良昌(29回)

35回卒池内ゼミの仲間が集う

池内ゼミOB会

第35回卒業の池内信行博士ゼミの仲間は、平成16年11月13日梅田グランドビル27階白楽天に集った。卒業以来初めての集いであった。30名編成のゼミであったが、名簿整理の途上2人の仲間が他界している事が判明。7名の住所を突き止められなかった。北は北海道旭川市、南は宮崎県西都市と総勢10名の参加を見、冒頭今は亡き池内先生と若くしてこの世を去った2人の御霊に黙祷を捧げ開宴。やはり池内理論の思い出話に花が咲いた。師は「企業は、経済(生活者)の為に生成してきた存在である。」との観点から企業のあるべき姿を説かれた。多発する

榎木美子(46回)



昨今の企業の不祥事を見る時、師は如何に立腹されるだろう。さらに関西ゼミ、日本ゼミ、西日本ゼミ等全てのゼミナール大会に「経営経済学とその周辺科学」とのテーマの論文を以て参加し全国有名ゼミの学生と論陣を張った懐かしい思い出話に終始した。之は科学のインタデシプリナルアプローチである。インタデシプリナルな研究方法は純粋科学では無く、政策的学問等実践的、技術的な学問、社会科学、自然科学等の区別無くあらゆる分野の研究に用いられ今では慶応大学がその先端を行っている気がする。純粋科学としての経営経済学の立場をとりながらインタデシプリナルアプローチの手法を約40年前に手ほどきされた池内先生の先見性と、偉大さを報告し35年前の池内ゼミ同士の集いの報告とします。

東 和伯(35回)

昭六会の戯言

昭六会 (第6期生)

磯野、陰下、水納三氏をゲストに招き、新阪急ホテル集合。磯野先輩は食事制限で食物一切口にしない条件で出席頂き一同感動し、昂揚した気分での開会でした。大森君提供の別掲高齢者健康術をテーマに喧喧諤諤議論展開、話が教育問題に発展して社会の乱れ、公徳心の喪失は教育方針に帰着す。人間の基本である挨拶を忘れ私権意識が強く公共の福祉は私権に優る大事なことがないがしろにされ詐欺殺人強盗等兇悪な犯罪横行して社会の安寧が破戒された。原因は矢張り教育問題に尽きる。安心して生活できる社会の回復は教育基本法改正が一同の集約でした。予定を大巾延長して解散した。余燼さめ難く席

を改めて母校経大の教育について議論し至福の一日を終り解散しました。
土手勘次 (6回)



昭六会 同期会
平成17年10月26日 (水) 於 新阪急ホテル 后1時 童の間

昭六会の歩み

黒正蔵先生が昭和商を創立され、た建学の精神は、単にエリート養成だけではなく、日本産業の発展に役立つプロの職人養成を目指されたものでした。3年間親しくその薫陶を受け、肌身で感受した我々は、昭和商の卒業生であることに自負と誇りを持っており、この昭六会はその6期生の集団です。

昭和61年在阪の有志が集まり、同期会を企画、107名に案内状を送り、全国から36名が大阪の風林閣アベノ店に集まり、在学時の懐旧談から人生論まで、諸論風発和やかに旧交を温めて発足致しました。

今日まで毎年開催してまいりましたが、残念ながら死亡、歩行困難などから参加者が年々減少し、今年の出席者は8名の予定です。各々人生の賞味期限が切れるロスタイムに突入して米寿を迎えるようになり、昭六会の最後を見取るのは誰かと、時々友の顔を追っているこの頃です。最後になりましたが、母校大阪経済大学の更なる発展を昭六会一同祈念しております。

土手勘次 (6回)

ゼミ短信

先生方からのメッセージ

六十路へ向かって

池野 重男先生

六十路へあと3年もの齢になりました。同年の友人は「アルバイト・派遣・パート関西労働組合」(Tel 06-6881-0110)を立ち上げました。しんどい働き方になっていく世の中を真正面から引き受けるその迫力に、少しは力になりたいと思うと同時に、自分自身の生き方の総括をも迫られます。そういえば、40を超えてしまったというFがやって来て、そろそろ田舎へ帰ろうかなと言う。教員30年目の私の行く先を考えたアカン齢です。

出航

市川 緑先生

来春初めての卒業生を送り出します。2年半の間ともに過ごした14名が、防波堤の内での演習を終え、大海原へ船出するわけですが、嵐もあれば風もあるもので、そのための充分なトレーニングができたかどうか、少々心配です。私自身がそうであるように、時折母港に帰港して(同窓会に出かけて)なつかしい同級生と語ったり、先輩後輩との新たな出会いを楽しんでくれたらいいなあと、思います。

EU瞥見

稲場 紀久雄先生

ロンドンを8月21日発ち、スウェーデンのストックホルム、ドイツのフライブルグ、ベルギーのブリュッセル、さらにパリを経て9月11日帰国しました。EU域内では出入国は自由、通貨は原則ユーロのみ。人と物の移動は完全自由化です。EU行政府は活気に満ちていました。個々の国家の特性を尊重しつつ、ヨーロッパの統一を目指す21世紀の世界観がそこに認められます。20世紀を超えたいという意志と勇気を痛感しました。

18世紀の人との対話

片山 麻美子先生

社会でがんばっていらつしやるみなさん、お元気ですか。ことし、懐かしい卒業生と会うことができました。他のみんなも元氣かな、などと思ったりします。

私のほう、1年間国内留学先の神戸大学で18世紀イギリスの詩の研究をしていました。と同時に、普段の教える立場から教えられる立場に代わって、若い学生と一緒に授業を大いに楽しみました。何百年も前の人と対話しながら、読み解いていくとおもしろい。少し元氣をもらいました。

研究に関する最近の感心テーマ

木村 俊郎先生

民法の研究が主たる専門領域です。近年は、その民法を中心にして環境問題にとり組んでいます。具体的には廃棄物処理場の問題と景観問題における「差止」がそれです。とりわけ景観問題に関しては、昨年、景観法が施行されました。この景観法を中心として立法目的は異なるのですが既存の法律を用いて、どのような景観法体系を構築していくべきなのか、その際、民法はどのような役割を担うべきなのかを研究しています。

自分の目標を明確に

黒木 賢一先生

人間科学部の1期生の就職活動も一段落しつつある。ゼミの学生には3年次から就職活動について口酸っぱく言い続けてきた。ゼミ生からすれば、「口うるさい教員」であろう。ゼミ生の一人は、将来「犯罪心理学」を専門にしたいと心理系大学院の進学を目指していたが、「早く現場に入り、そこで専門性を追求したい」と、公務員試験(警察官)を受け、見事に合格した。その姿を見て、自分の目標を明確にし突き進む学生を誇りに思った。

自分を信じること

古宮 昇先生

教員という仕事は、僕自身の人としてのあり方が問われる仕事だと感じています。ゼミでも、「僕が持っている価値観は本当に学生のためになる価値観だろうか?何をどうするの?」と、試行錯誤しながらかわわっています。よくはいま「学生を信じる」とを学び、それを通して本当は「自分を信じる」とを学んでいる過程にいます。気がします。

小さなグローバルゼミンが本学にも

桜井 三枝子先生

現在9名在籍のゼミ生のうち、3名が国外(メキシコ、タイ、スペイン)で活躍しています。残り6名は就職活動やクラブ活動に最後の青春の日々を賭けています。新校舎と設備の整った環境で今の学生は恵まれています。交流課のサポートもあり、メキシコのベラクルス大学の研修旅行も2回実施され、一般協定・交換学生協定も締結され、架けた橋をすでに本学からもメキシコからも学生たちが多数渡り国際化への活気が出ています。

ゼミの同窓会を終えて

滝内 大三先生

3月19日にゼミの同窓会をしていただきました。あつという間に過ぎた楽しいひと時でした。立派に活躍されているOBやOGの皆様を拝見し、教師をしてよかったと改めて思いました。忙しい中を準備に奔走していただいた幹事の方に改めて感謝です。

私は就職から解放されたので、そろそろ自分の研究のまとめをしようかなと準備を始めたところです。

やっぱり音楽

永野 仁先生

講義の始めに音楽を聴かせて数年が経つ。今年の春学期はいちばん成功したようだ。ゴスペル・シンガー、マヘリヤ・ジャクソン唱う「アメージング・グレース」「ジェリコの戦い」の他、いくつも絶賛を受けた。毎度小箋に感想を書かせる。これが文章力を養うようだ。学期末レポートの末尾に「おかげでレポートがすらすら書けました」と付記した学生があった。「次はどんな音楽か、と楽しみに毎週出席しました」という学生が多い。

ゼミ短信

先生方からのメッセージ

ゼミ活動について

藤本 高志先生

ゼミでは、学生が環境や農業に関する課題を自由に決め、ローテーションで報告します。今年のゼミ合宿では、淡路島の五色町へフィールドワークにでかけました。五色町では、「快適で住み良い環境の構築」を基本理念とし、環境問題に積極的に取り組んでいます。冬場の強い風を活用した風力発電事業や、菜の花から絞った油から精製したバイオディーゼル油で自動車を走らせる菜の花プロジェクトについて調査しました。宿泊はロッジで、食事は自炊という合宿でしたが、いっしょに活動することで、ゼミ生の絆が強くなった気がします。

集中講義を終えて

藤本 義治先生

この8月に、かつて(15年ほど前)勤めていた放送大学で集中講義を行ってきました。学生は平均40才くらいでしょうか、なんとか講義内容を理解しようと頑張っておられました。私語など無く、やりがいがありました。秋から大経大でも後期が始まります。なんとかうちの若い学生が興味を示して、私の講義をしつかり聞いてくれるようにするにはどのような

授業を進めていけばいいかななどと考えています。

ゼミ近況

細井 真人先生

本年も4回生ゼミは男子10名女子9名計19名、3回生ゼミは男子16名女子4名計20名で、「株価の予測」をテーマに学んでいます。4回生はやや統計ベース、3回生はややコンピュータベースの分析です。卒業生も気軽に連絡下さい。
hosoi@osaka-u.ac.jp

家庭の情報化

松本 良治先生

デジカメ写真や、ビデオ映像、TV録画、あるいは音楽ファイルなど、家庭内に莫大な数と量のデジタル情報が溢れ出しています。これらを安心できるメディアに保存し、いつでも簡単に視たり聴いたりできる環境を早急に整備しないとやっかいなことになりかねません。これからは家庭の情報化が重要な課題になります。

着任4年目

光田 基郎先生

「還暦の丁稚奉公」と徳島大より着任してから3年半経ちました。人

パリの凱旋門に
たたずんで

六浦 英文先生

凱旋門から放射状に12本の道路が延びている。車でこの交差点を経由して目的の道路に入ろうとすると、反時計回りに六重に車列が回転する。渦の真つ只中に飛び込んで、前後左右に気配りしながら、ハンドルを操作し、スピードを制御しなければならぬ。信号のある十文字交差点方式の整然とした交通の流れに慣れた者には、そこはまるでレーサーの技量のように見える。この時代を生き抜くにも、そういう技量が必要なのかも知れない。

大経大2年生

宮川 敏治先生

大阪経済大学に赴任して2年目に

いつも良き
協力者として

山田 文明先生

私の毎日は、いつも仕事に追われています。積み残しの仕事が多く、気が滅入りそうになりながらも、なんとか頑張っています。

大学の仕事に加え、北朝鮮の人権問題、その他90歳になる母の世話など、どれをとってもなかなか思うように成果が上がりません。しかし、いつも、いろんな協力者がいるので、とても助かります。真の協力者がいることはとても大切なことです。みなさんとも何かの協力者としての関係を続けたいものです。

理事会報告

本部だより

平成17年度理事会で退任に際し
「同窓会と学校は運命共同体だ」と強調する田中富三同窓会会長

平成17年度理事会がさる6月25日(土) 50周年記念館で開かれ、挨拶に立った田中同窓会会長は「2年後には大学全入時代を迎えます。すでに定員割れの大学が30%にも達しているといわれており、大学改革は今からが本番です。大学と同窓会は運命共同体です。大学の発展なくして同窓会の発展はありません。ひとつ母校発展のため引き続きご支援を賜りたく願います。ところで、私はこの度同窓会会長を退任させていただくことになりました。日本経済新聞に連載された小説「平家」の作者、池宮彰一郎氏は「天運というものがこの世の中に形としてあるならばそれは人と人との出会いであり、つながりであろう」と話しておられたが、私の人生の終盤において、同窓会会長という大役を仰せつかり、多くの同窓生の方々と出会うことができ、活動を共にすることができたことは、まさに何物にも変えがたい天運であったと感謝しているところでございます」との熱っぽい退任のご挨拶がありました。

新同窓会会長に中平秀賢氏(25回卒)を選出

つづいて議長に佐藤武司氏(30回卒)を、副議長に福地利仁氏(39回卒)を選出、平成16年度事業報告ならびに収支計算書を承認、小谷芳男本都役員選挙委員長(24回卒)から任期満了にともなう田中富三氏(18回卒) 陰下嘉典氏(16回卒) 福田耕氏(16回卒) 太田一澄氏(17回卒) 国西良昌氏(29回卒) 福元輝雄氏(37回卒) の退任と、中平秀賢氏(25回卒) 斎員文氏(30回卒) 中村敏啓氏(31回卒) 片山剛征氏(36回卒) 南正治氏(43回卒) 大畑年範氏(51回卒) 二宮勉氏(65回卒) の7名の新本部役員就任提案があり、満場一致でこれを承認、その後の常務理事会で新会長に中平秀賢氏を選出した。

田中前会長から「中平氏は人格、執権、指導力において申し分のない方であり、大学とのつながりも深く、同窓会への思い入れも人一倍強い方であり、私からもよろしくご協力をお願いする次第です」との紹介があり、挨拶に立った中平新会長は「優秀な諸先輩がおられる中で、何故私がと驚きと戸惑いを隠し切れません。執権豊かで人格高潔な田中前会長の後、浅学非才の私がその任を引きうけるは、皆様に対して大変失礼であるという気持ちでいっぱい

でございます。しかし一度引き受けたからには、皆様からお知恵をいただき、母校発展のため尽力したいと思っております。それにいたしましたも皆様方の絶大なご協力なくしてこの大役を務めることは出来ません。ご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます」と、力強く新任の挨拶が述べられた。

引き続き第2部に入り、井阪理事長から「この6月末で2期目の任期を迎えますが、その6年間何をやってきたのかということをお話しさせていただきます。1期目は70周年という節目の年でもあり、企業社会に、地域社会に開かれた大学ということである。いろいろな講演会などを通じて本学をアピールし、インターンシップ制度を通じて本学生を社会に、17歳のメッセージを通じて高校生に、そして最後に北浜に社会人を対象にした大学院を立ち上げるなどに取り組んできました。この間教育環境は概ね整備されてまいりましたが、大学を取り巻く環境は非常に厳しいものがあり、入学志願者数は1995年の19,000人台をピークに減少し、私が就任した当時は8,500人台まで落ち込みました。その後13,000人台に回復してきましたが、今年は12,000人を少し割りこみました。少子化の影響は少なめませんが、ここ数年偏差値は平均して53から54と上がってきました。就職の方は分母を就職志願者でいきますと、全国平均を2.3%上回っております。こうした傾向は教職員の方々のご努力はもろろのこと、同窓生の皆様のお力添えの賜と感謝しております」との挨拶があり、また重森学長からも「学長就任以来8ヶ月を経過しましたが、この間最大の課題は大阪証券取引所ビル3階に開校した北浜キャンパスの開講でありました。理事長はじめ皆様方のご尽力により20名定員の大学院に54名の院生を迎えることが出来ましたし、90名を超える企業人を講師にお招きして、教える方も、学ぶ方も関西を代表する陣容を整えることが出来ました。こうしたことによって本学の社会的評価がまた一段と高まっております」との挨拶があり、佐々木入試部長、藤原進路支援センター課長から、それぞれ学内近況報告があった。

その後懇親会に移り当日の最年長出席者、土手勘次氏(6回卒)の元氣溢れる発声で乾杯し、教職員、同窓生が和やかに交流の輪を広げました。

以上

事務局だより

本部役員一覧

2005.11.20現在

氏名	役職	卒回	氏名	役職	卒回	氏名	役職	卒回
中平 秀寛	会長	25	森川 義一	広報部部长	25	神田 博	関連推進部・事務局長代理	30
小谷 芳男	副会長	24	片山 剛征	広報部	36	梶村 貞男	関連推進部	37
水納 敏也	副会長・事務局長	25	梅原 猛	広報部	62	藤原 広太郎	関連推進部	54
森川 義一	副会長	25	中村 敏啓	財務部部长	31	植村 祐三	監事	32
津秋 靖博	副会長	29	市原 幸恵	財務部	42	大西 健介	監事	35
中村 敏啓	副会長	31	二宮 勉	財務部	65	山内 淳子	監事	47
小谷 芳男	総務部部长	24	津秋 靖博	組織部部长	29	磯野 齊	名誉会長	3
宇藤 博文	総務部	28	斎 貞文	組織部	30	陰下 嘉典	相談役	16
南 正治	総務部	43	福地 利仁	組織部	39	田中 富三	相談役	18
大畑 年範	総務部	51	佐藤 武司	関連推進部部长	30	南部 俊一	顧問	11

同窓会支部長一覧

2005.11.20現在

支部名	氏名	卒回	現住所	電話	E-mail アドレス
北海道	藤岡 忠鷹	24			
	藤本 二郎	34			
東京	重松 尚	23			
富山	柚木 繁	21			
石川	吉田 勲	20			
福井	長崎 和夫	29			
岐阜	磯田 郷一郎	26			
静岡	明田 安生	25			
愛知	英 成樹	38			
三河	正村 公一	27			
滋賀	南 和男	35			
京都	三好 政彦	26			
大阪	福地 利仁	39			
市役	石川 裕	28			
所	青木 昭生	34			
大北	中 一正	27			
豊池	車野 修三	27			
泉	堀本 修	24			
堺	小谷 芳男	24			
○尼	小進 仲次郎	33			
阪	下土 康晴	25			
神	廣野 義直	34			
丹	佐藤 武司	30			
○明	永井 宏	19			
東	森口 鐵章	32			
姫	長船 昭一郎	32			
路	西本 集一	23			
歌	宇藤 博文	28			
	西山 林一	22			
	浅原 宏隆	35			
	小野 巧	37			
	竹本 勝章	32			
	小池 重幸	32			
	北谷 真人	32			
	小林 孝	35			
	榎本 敦	31			
	岡野 茂樹	26			
	小野 邦男	32			
	植田 達	52			
	寒田 陽	40			
	濱 忍	35			
	大盛 豊一	23			
	前園 博隆	34			
	西山 昭吾	16			
	鮫島 圭	18			
	上田 敬二	18			
	国西 良昌	29			
	長谷川 宗平	28			
	大樽 一美	32			

○…全国支部長会代表幹事 ○…副幹事

本部だより

平成16年度収支決算書

自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日

(単位：円)

収入の部			支出の部		
科	目	決算額	予	算	額
前期繰越金		17,538,876			17,538,876
会費収入		56,680,000			54,000,000
總會収入		806,000			800,000
利息収入		75,205			5,000
澁江収入		670,610			500,000
名簿収入		237,410			100,000
雑収入		23,600			0
合	計	76,031,701			72,943,876

科	目	決算額	予	算	額
總會費		5,311,278			7,000,000
役員会費		1,295,866			2,500,000
支部費		7,749,577			9,000,000
事務費		786,698			1,000,000
人件費		6,480,000			7,000,000
旅費交通費		4,202,440			4,500,000
広報活動費		17,010,690			19,000,000
名簿調査費		645,115			2,500,000
学対費		6,681,886			7,000,000
諸会助成費		966,200			1,500,000
慶弔費		698,881			700,000
70周年記念事業対策費		2,214,288			3,500,000
特別基金繰入金支出		5,000,000			5,000,000
予備費		0			2,743,876
次期繰越金		16,988,782			0
合	計	76,031,701			72,943,876

平成17年度収支予算書

自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日

(単位：円)

収入の部			支出の部		
科	目	予算額	摘	要	
前期繰越金		16,988,782			
会費収入		57,000,000			
總會収入		800,000			
利息収入		100,000			
澁江収入		500,000			
合	計	75,388,782			

科	目	予算額	摘	要	
總會費		6,000,000			
役員会費		2,000,000			
支部費		9,000,000			
事務費		1,000,000			
人件費		7,000,000			
旅費交通費		4,500,000			
広報活動費		19,000,000			
名簿調査費		700,000			
学対費		11,600,000			
諸会助成費		1,500,000			
慶弔費		700,000			
特別基金繰入金支出		10,000,000			
予備費		2,388,782			
合	計	75,388,782			

『澁江』購読料のお願い

「自らの購読料で『澁江』を育てよう!」を合言葉に、昭和59年度からスタートしました『澁江』購読料は、お陰さまで深い御理解とご協力をいただき、感謝いたしております。

編集者一同は、このご声援に応え、親しまれる『澁江』を目指し、頑張っておりますので、引き続き購読料へのご協力のほど、よろしくお願いいたします。

(ご送金は、同封の振込用紙をご利用ください。振込手数料は不要です。)

同窓会ホームページもご覧ください!

同窓会活動をより身近なものとして活用していただくために、HPを作成しました。年間行事予定や掲示板などがあり、住所変更の申請も手軽にできるようになっています。ご活用いただきご意見、ご感想をお待ちしております。

HPアドレス <http://www.osaka-ue-denke.com>





大森 侃二氏 (6回卒)

岡山県和気郡出身、88歳、岡山一中から昭和商高を経て九州大学経済学部卒、大阪産業セメント（現住友大阪セメント）入社、大阪産業耐火（現ヨコティ）の社長、監査役を務め、現在は医療法人飛屋会理事。

大きな声がするのでケンカでも始めたのかと思ってしまうと、意気投合して大騒ぎといった具合に大変気さくな人でした。また、六高の校長だった頃、先生はよく講演に招かれていました。そのカバン持ちとして同行しましたが、講演に入る前の枕言葉が上手なんです。先生は昔の髪結いの組合とか、散髪屋、うどん屋の組合の面倒を見ておられた。だから一般大衆の世相に通じておられた。こうした話を織り込んで最後はきつちりと本題を論じておられる。話しつづけておられるので、大きな包容力に一つまみ集まった人々を春風駭蕩といった気分になさる。また、先生は「夏休みが済んで、家に帰るときは必ず土産を買って帰れ。そうすれば親はかならず喜ぶ」とか、「電車に乗る時は普通に乗り、そうすればちよつとでも多くの時間、本も読めるし、ものを考える、思索ができる」と。そして「学生時代の下宿に本が増えない学生はダメだ。1日3時間、夜寝る前に30分は必ず本を読め」と、よく言われていました。

土手 そんな先生も53歳の若さで他界された。後10年黒正先生が学長を務めていただいておれば、現在の経大の姿も大分変わったと思います。こうゆう黒正先生の気風を在学生はもとより、同窓生諸君にも、少しでも理解していただければと思っております。

大森 最後に、自分なりに学んだ成功の秘訣というわけではありませんが、自分の短所を自覚し、他人の意見やアイデアを自分流にアレンジすることにより、凡人でも成功できるということを言いたい。たとえ

た。また「無用の学をやれ」と、よくいわれた。学校の成績がどうかではなく、幅広い人間になれと。だから酒も飲みなさい、マージャンもやりなさい、恋もやりなさいと。つまりあらゆる事に学びの場があるというわけです。

土手 昭和商高の校長を引きうけられたのが40歳の若さです。ね。

大森 先生は旧姓の中山家から黒正家へ婿養子として迎えられたのですが、中山家は北浜の株屋さんを営んでいた岡山の大資産家。その主人が亡くなって、莫大な遺産を相続されたんです。それで日本経済研究所を設立され、昭和商高設立にも私財を投じられたのです。それ以外にもお使いになつておられたので、ある講演で「わしは31歳で京大の教授になり、37歳で経済学博士になった。この間に黒正家の財産をすべて使い切った。だから私は不経済博士だ。私の話は適当に聞いておきなさい」と、笑わせておられた。



土手 勘次氏 (6回卒)

広島県江田島出身、88歳、兵庫県立第二神戸商業学校を経て昭和商高に入学。昭和15年卒業と同時に日産火災海上保険に入社、総務部長を最後に退社、現在神戸市中央区で新山手ビルを経営。

ば営業をやれといわれた。自分は営業は苦手だ。そんな時に、他人の知恵を借りるんです。本を読んで勉強するのも良ろしい。それから私の愛読書に「人を動かす」(D・カーネギー著、山口博訳)というのがあります。これには人とはどんなものかということが書いてあります。たとえば、人は誉めてやれば喜ぶ。これを実践できる人は出世しますよ。参考にしてみてください。

— お二人とも長時間ありがとうございます。

昭六会のお二人に聞く よみがえれ黒正イズム

大学全入時代を迎え、勝残りをかけた大学改革が求められている中、今大学に「道理貫天地」という黒正巖博士の創学の精神をもう一度見直そうという機運が高まっている。とりわけ「自由と融和」を旗印にした黒正イズムとは一体何なのか、またそれが如何して生まれてきたのかといったことにも関心が集まっている。そこでこの辺の事情を探るため、直接黒正先生の講義を受けられた数少ない卒業生の中から、大森侃二氏(6回卒)と土手勘次氏(6回卒)のお二人にお集まりいただき、当時の思い出、エピソードをまじえながら黒正先生の人柄、そしてそこから生まれた教育哲学、母校愛などを中心に語っていただいた。

(聞き手は同窓会広報部、森川義一)



教え子が世間で評価されてこそ立派な教授なんですよ……

— まず、ご二人にお伺いしますが、今の経大についてどう思っておられますか。

大森 今感じていることは、今の学生や同窓生に学校に対する思い入れが少なすぎるということだ。それはなぜかと言え、思い出に残るような先生がいなかったことだ。つまり先生の講義を聞いても感動が無い。母校愛というものは学校に対する思い入れが無いと生まれてこない。学部が増え、学校の規模が大きくなったからかも知れませんが、先生と学生の繋がりが薄くなっているのではないのでしょうか。

土手 70周年記念事業の一環として募金活動が行なわれましたが、7万余の卒業生がいながら、わずか2千数百人の卒業生しか参加していなかったという事実は、大変寂しい思いがしました。大学を卒業した者が1万円の寄付が出来ないというはずが無い。集め方にも問題があったと思いますが、1人1万円を寄付すれば7億円ですよ。10億円の寄付が集まらないというのはおかしい。

大森 愛校心ということで言えば、学長が講義に立つべきだと思う。そしてその学校に伝承されている精神を広く伝えて行く。私が言いたいのは、一般社会では職人は自分の作った作品が悪ければ売れないし、飯を食っていけない。教授も同じで自分が教えた学生は商品ですよ。この教え子が世間で評価されないというのは、プロの教授とはいえない。

産業社会に役立つプロの職人を育てる

土手 大森君から聞いた話ですが、黒正先生がよく「うちの学校はスビーカーは良いのだが、レシーバーが悪くてね」と、言われていたそうだが、事実昭和商高時代、黒正先生を筆頭に本庄栄治郎先生、菅野和太郎先生、藤田敏三先生といった顔ぶれで、私立の商高ではナンバーワンの顔ぶれが揃っていた。とりわけ黒正先生は、昭和商高はエリート育てるために創った学校ではない。日本の産業社会に本当に役立つプロの職人を育てるという理念のもとに学校を創設され、教育されていた。いまでいう人間の実学というものです。そこで育った優等生の大森君は、後に黒正先生御夫妻の媒酌で結婚式を上げたんですよ。

無用の学をやれ

— 黒正先生とのご縁は、同郷というだけではなかったんですね。

大森 私は岡山一中の先輩である黒正先生の紹介で昭和商高から九州大学へと進んだのですが、先生の事に関しては徳永光俊先生が、最近出版された著書「黒正巖と日本経済学」に詳しく記載されておりますので、その他のことで黒正先生の人となりをお話してみたいと思います。先生との思い出は尽きないのですが、なかでも京都・比叡山の奥にあった貸し別荘でよく食事の世話をさせられた時の事は、はっきり覚えております。昭和15年でした。経済地理論を書いておられました。貸し別荘ですから三高の外国人教師も多く来ていました。夜中に

商都大阪の中心地に、北浜キャンパス開設!!



本年4月、関西経済の金融と証券の中心地北浜に、金融・会計のプロを養成するサテライト大学院と、新しい「社会人大学」を創造する経大イブニングスクール、さらには生涯学習時代に対応した、誰にでも幅広く知識と教養を学ぶことができる北浜黒正塾の3つの機能を持つ北浜キャンパスがオープンした。社会人を対象とした大都市中心部でのサテライトキャンパスは、もはや珍しい存在ではないが、金融・証券取引の中心地に開設したというのは、兜町にある早稲田大学日本橋キャンパスと本学の北浜キャンパスを置いて他にない。それだけに産業界からも大きな期待が寄せられているが、開設して半年、その運営状況や、そこで学ぶ学生諸君の意気込みや如何と期待を持って訪ねてみた。

年初来の高値をつけ、大いに賑わう証券市場とは裏腹に、本学北浜キャンパスのある大阪証券取引所ビル周辺は、意外にひっそりとしたオフィス街と化していた。1丁化の普及からかつて軒を並べて競い合っていた証券会社の店頭営業が影を潜め、立会い時間が終わると、場立ちと称される証券マンが、一斉に取引所を飛び出してくるといった風景は、もはや見られない。

ただ、歴史的建造物として大阪市民に親しまれてきた石造りの円筒形の玄関部分は、新ビルのエントランスホールとして残されており、その風格は今も建設当時に偲ばせる。エスカレーターでゆっくりと3階まで足を運ぶと、そこにキャンパスがあった。

金融・会計のプロを養成する大学院

このキャンパスの事務を取り仕切る高橋努理事の説明によると、このサテライト大学院には企業の幹部や経営者、公務員、税理士志願者など多種多様な社会人52名、経済学研究科9名、経営情報研究科43名が在籍している。学生の年齢層も20歳代から60歳代と幅広く、社会人が限られた時間で最高の学習効果を得られるようにカリキュラムが組まれているが、単に知識の吸収だけでなく、刺激のある交流の輪が広まることも期待されている。

実務志向の経営学講座を

次に経営学部第2部の3年次編入コースとして設けられたイブニングスクールがある。短大や専門学校を卒業した社会人で、この日は13名の方が受講していた。午後6時半から9時半まで。あずさ監査法人の上田充宏講師による「経営管理論」(環境マネージメント)の講義に耳を傾ける。半分は女性の受講者でその内の一人に「どんな具合ですか・・・」

と声をかけると「昼間仕事をしての3時間は大変です。卒業まで2年、ようやく4分の1が過ぎたという感じです」という。ただ、目は笑っており、このイブニングスクールを楽しんでいるようだ。

多彩な講師で人気の教養講座

もうひとつ、このキャンパスの売り物のひとつに、一般の社会人を対象にした教養講座「北浜黒正塾」というのがある。月曜日から土曜日まで、さまざまな業界で活躍するリーダーに、新時代のビジネススキルやモノの考え方を話してもらう。「受講料が1回2千円と安いのがうけて、前期で1300名の受講生がありました」としており、後期も67講座を用意して受講生を募っている最中とか。同窓生の皆さん一度この講座へ足を運んでみては・・・。

わずか1日の見学だけで全容を理解できるわけではないが、この北浜キャンパスの講師陣約100名の内、外部講師が9割を占めるという。本学の専任教授は新しい大学院を作るためのプロデューサーに徹したようだが、大隅キャンパスとは違った実学を学ぶという点ではメリットがある反面、これでは大阪経済大学としてのポリシーが失われてしまうのではないかとも考えた。うまくこの辺りをコントロールしてもらいたいものだ。ともあれ、この北浜キャンパスは、今日の学生諸君が、この北浜キャンパスを巣立って10年後、その時に大いに実力を発揮され、活躍されてこそ大きく評価されることであろう。学生諸君の奮闘を期待すると共に、教養関係者のご努力に感謝しつつ、北浜キャンパスを後にした。

(筆者は同窓会広報部・森川義一)

OB REPORT

誠実一路をモットーに



富山県出納長
塚原 鐵二氏
(35回卒)

平成17年4月、富山県庁の知事、副知事に次ぐ特別職「出納長」に就任した。県予算7千億円の財布の紐を握る「金庫番」であると同時に、三役のひとつとして、知事のブレーン役を担い、県政全体を眺む重要ポスト。

昭和44年3月、卒業と同時に富山県庁へ入庁。企画、総務畑を中心に多くの部門を担当したが、東大、京大、早稲田、慶応などの有名大や地元国立大出身者が多い県庁の中で今日のポストに就いた裏には、それ相当の努力があったはず。「一般の企業に入社された方は、その企業の利益追求に奔走されたと同じように、公務の道を選んだ私は県民のために福祉、教育、環境、産業振興、社会資本整備といった公益の追求を目指し、頑張りました。行政は基本的には法の執行ですから、経済学部出身の私としては、大学時代よりむしろ社会に出てからの方が行政法、

民法、労働法など法律関係を中心によく勉強しましたね」「学歴ではなく、生涯は勉強の時代です。チャンスは誰にでも与えられているんです。与えられたチャンスはきつちりやり遂げる。信頼を得る。次のチャンスがやってくる。といった具合に……。もちろん運もあると思いますが、仕事ぶりはきつと誰かが見ているんですね」と笑う。

知事を補佐して、さまざまな県政の重要課題に取り組んでいるが、日頃モットーにしている言葉は……と話を聞くと、キツバリ「誠実一路」。「いつも直球勝負です。たとえ騙されても、裏切られても、私はこれでいきます。」「庁内ではこの誠実さに加えて、持ち前の企画力、バイタリティ、調整力が評価され、執務室には大勢の職員が相談に足を運ぶ。そんな時、若い職員に「現代はグローバル化、ボーダレスの時代。視野を広くして日本の良いところは大切にしつつ、守りながら、しかし漫然と先例や既成概念にとらわれることなく、勇気をもって改革を進めてもらいたい。」と熱きメッセージを送る。

また、母校の在校生や若き同窓生には、ブランドリーになぞらえてV.S.O.Pを、と語る。「奈良・薬師寺管主の安田映胤さんが『人生春夏秋冬』ということを言っておられますが、私は二十代はバラエティ(多様性)のV、三十代はスペシャリティ(専門性)のS、四十代はオ

昭和21年10月 富山県高岡市出身。県立高岡商業高校卒。昭和44年3月大阪経済大学経済学部卒。同年富山県庁入庁。交通政策課長、国際課長、計画課長、秘書課長を歴任し、経営企画部次長、政策総括監、生活環境部長を経て出納長に就任。趣味は旅行、スケッチ、音楽、ジョギングなど。

リジナリティ(独自性)のO、五十代はパーソナリティ(個性)のPを身に付けてほしいですね。」「それに「軽率な悲観主義よりも慎重な楽観主義で前向きな人生を、また『おかげさま』や『思いやり』の心を忘れず、人との絆を大切にしたいですね。」「と、にこやかな顔を覗かせた。

最後に、これからの夢はと話題を変えてみた。「公では、県の財政再建と『元氣とやま』の創造に尽力したい。私では、今年両親を相次いで亡くしたが、看介護に苦労をかけた妻をゆつくりさせてやりたい。一緒に旅行でもしたいですね。」「と、にこやかな顔を覗かせた。

OB REPORT

創業百周年に向けて
一大飛躍を期す

株式会社カナデン代表取締役社長
佐田 憲彦氏
(35回卒)

平成17年6月末の株主総会後の役員会でエレクトロニクス・メカトロニクス分野の総合機器販売・システム技術の提供を主業務とする株式会社カナデンの代表取締役社長に就任した。今3月期の売上げ1300億円、資本金55億7625万円、東証、大証二部上場の優良企業。「2007年5月15日に創業100周年を迎えるという極めて重要な時に社長という大役を仰せ付かり、まさに身の引き締まる思いで一杯です。これも私に与えられた使命と思い、精一杯頑張ろうと思っています」と抱負を語る。

日本三大祭りのひとつともいわれる博多祇園山笠で、ねじり鉢巻をした若衆の格好でもすればよく似合うだろうと思わせる九州男児。いかにも負けん気の強そうな気風の持ち主。「仲間と共に、与えられた仕事は絶対に逃げない。失敗を恐れず、クレームは最大

のチャンスだと思い全力投球する。これが私のモットーです」と。カナデン(株)の前社長も、彼のこの辺を見越して、この節目の大切な時期にバトンを渡したのだろう。

そんな彼も「姉が大阪にいたもので、母がちよとでも身内がいる方がいだろうと、経大の門をくぐりました。が、大学時代はこれといったクラブ活動もせず、さりとて勉強ばかりという学生でもなかった。ゼミの与田先生が急逝され、卒論も出していなかったんでは……。高校が進学校だったこともあって、なんとなく大学に進学はしたものの、もんとした時を過ごしていましたね」と笑う。ただ、「友達にも恵まれ入学して1年間、江口橋近くで過ごした寮生活や、夏休み期間中に北海道の牧場で働かせてもらったこと、さらには東洋観光という旅行会社のバスガイドとして夏山旅行の案内に汗を流したことなど、学生時代だからこそ出来た思い出は、私にとって掛け替えのない良い経験させていただきました」と、偷しかつた青春時代を思い浮かべ満足そう。

入社してからは本社の冷熱部に配属されたのを皮切りに、空調工事部門をはじめとしたあらゆる部門での営業・企画に従事する。「うちの会社の社員の半分は技術者で、技術のことが解からなくて仕事は出来ません。だから二

級空調管理者免許などを取得するため勉強をしましたが、文系出身の私にとつて大変でした」と、入社当時を振り返る。そして今、2007年売上げ2千億円を目指す大企業のリーダーとなった彼に「経大生や若き同窓生に『一言』と話題を向けた。」「今年2名の経大卒業見込みの方が、1次試験をパスして役員面接にこられたが、残念ながら入社されなかったようです。当社もそうですが、世間は学歴だけではなく、やる気のある人材を求めています。希望を持って頑張ってくださいね」と語っておられた。佐田社長に続くファイトマンの挑戦を期待したい。

福岡県北九州市出身。40年県立門司高校卒、44年大阪経済大学経済学部卒。同年カナデン(株)入社。平成10年電子第一事業部長、同11年取締役、九州支店長、同13年常務、同15年営業戦略室長、同15年専務。

OB REPORT

野球とともに一直線 めざすは夏の甲子園



滋賀県立八幡商業高等学校
硬式野球部監督 商業科教諭

池川 準人氏
(61回卒)

9月10日土曜日午後、30度を越す残暑厳しい中、東大津高校硬式野球部との練習試合終了後の限られた時間のなかで、お話を伺いました。

池川さんにとって野球との関わりは少年時代からのものであったそうです。その頃から野球の魅力にとり付かれ、その後八幡商業高校硬式野球部に進み、3年生の時にはキャプテンとして平成2年の夏、第72回大会に高校野球憧れの舞台である甲子園出場を果たされています。

その後、平成3年大阪経済大学経済学部に入學、在籍4年間の硬式野球部でもおおいに活躍、キャプテンとして、また「関西6大学野球」ではサードのベストナインを2回獲得されています。

大阪経済大学時代に教員免許を取得、平成7年長浜商工高校(現在の長浜北星高校)に赴任。4年後、母校で

ある滋賀県立八幡商業高校に移り、商業科の教諭とともに硬式野球部の部長を経て、平成13年8月から硬式野球部監督に就任現在に至っています。この4年の監督時代に、2年連続で春の選抜高校野球に甲子園出場を果たし、滋賀県初の快挙を成し遂げています。また現在1年から3年まで部員66名マネージャー8名の、総勢74名を束ね、野球に勝つ喜びとともに、3年間の選手の成長、野球技術だけでなく大人になる過程を見るのがなによりうれしい。一人一人の成長の進度のあと、歩みのあとがはつきりとわかり、私にとっての大きなやりがいになっています。監督になりましたと、自分が選手でプレーする時と違い部員全員の3年間の高校生活の重要な時期を預かるわけですからその責任の重さと、社会的使命の重要さをひしひしと感じています、とのこと。

進路については、八幡商業高校の時から、将来は高校野球の指導者になることを目指していました。教員免許を取得するため、商業科で取得した資格を生かして受験したい、商業の専門課程として発展的な学習をしたいとの思いから、いろいろ多面的に検討し大阪経済大学を選び平成3年経済学部に入學することができました。

大阪経済大学での大学生活は一人暮らしを余儀なくされたせいもあり、

第一には食することに大変苦労させられました。第二には、教員免許取得のための教職課程の授業を受けること、日夜猛烈な練習に明け暮れる硬式野球部とのクラブの両立がなにより難しく困難に直面、いろいろ悩んだことがつい最近のことのように思い出されると述べられました。

商業科の教諭として、簿記・情報処理を教えるかわら硬式野球部の監督としての2足のわらじはハードであり毎晩9時頃まではグラウンドにいらること。この夏も休みは2日程度。それでもこの2日間は日頃迷惑をかけている奥様の家庭サービスに充てられたとのこと。

訪問した翌9月11日の日曜日もあの甲子園常連の名古屋の東邦高校との練習試合がありますとのことでした。夏の甲子園出場を目指し、夢を追いかける情熱を持った池川監督に大きな拍手を送りたいと思います。

平成3年八幡商業高校卒業
平成7年大阪経済大学経済学部卒業
平成7年長浜商工高校教諭
平成11年八幡商業高校教諭
平成13年8月同校硬式野球部監督



出陣學徒の仮卒業式



「道理貫天地」小考

大阪経済大学経済学部 徳永 光俊 教授

黒正巖博士の考え方、生き方を表す言葉として、「道理貫天地」がよく言われる。昭和62年に大阪経済大学同窓会が発行した黒正巖の略伝の表題は、「道理貫天地―黒正巖先生の思い出―」である。大阪経済大学の西門裏には、平成4年に建立された「道理貫天地」の石碑がある。何かしら人口に膾炙した言葉のように思われているが、卒業生に聞いても記憶はあやふやである。いったい何時何処で使われたのだろうか。これは、戦時下の昭和18年9月に学徒出陣のために繰り上げ卒業した昭和高等商業学校の第10回卒業生へのはなむけの言葉として、卒業アルバムに墨書したもののである。彼らは、11月の学徒出陣壮行会の後、12月1日に入営していった。この「道理貫天地」に、黒正の哀切なる心意が託されているといつてよい。(なお、その後の調査で、昭和18年3月の卒業アルバムにも書かれていることが判明した。)

黒正は昭和10年から昭和高等商業学校長に就任していたが、戦時下の徴兵のもとで男子学生が集まらなくなり始め、昭和18年に大阪女子経済専門学校に変わった。翌19年には、母校の第六高等学校長に就任し、学生教育に粉砕努力する。

六高での黒正校長の様子について、六高で教鞭をとったこともある著名なイギリス史研究者である大野真弓は、次のように回想している。黒正校長はど型破りな校長はいなかった。戦時中の大詔奉戴日の詔書奉読の時でも、事務長が恭しく捧げる詔書をバリツと広げ、大声で「一気に読み上げ、最後に「御名御璽」と絶叫して、おしまいであった。勤労動員中の生徒激励のため、各地の工場を訪問し、「真理探求」「哲学尊重」「道義徹底」を説いたという。終わりの三つの言葉は、学徒出陣する学生たちのために「道理貫天地」と墨書した時の黒正の心意と同義であろう。

管見の限り、他に黒正自身がこの言葉を使用した例は見当たらない。似たような表現として、戦後の昭

和22年、ラジオ番組で青年教育を論じた際、「学問の本義に立ち還って、教育者自身が何物にも捉われず天地を貫く真理、世界を徹する道理の探究を邁進する筈である。」と、述べている。

またそれに近い使用例としては、昭和23年11月の「偶感」における「皆人はいかにさげと天つちを貫く道を究めんと思ふ」の歌中に、「天つちを貫く道」とある。「道理」という言葉の使用例としては、亡くなる直前の「羅村詩稿」の昭和24年8月2日に、「今人忘義貴黄金 道理如塵似猓禽 君子聖賢愚不及 元来無物有天心」と詠んだ漢詩がある。また、昭和19年「迎知命春之感」として、「探入史林三十年 錯節盤根道百千 樹間遙仰春峯雪 未知天命在那辺」と詠んで、襖に墨書している。

このように見てくると、黒正は人生の区切りとして50歳の「天命を知る」知命を意識し、昭和18年頃から「道」とか、「天」という言葉をしきりに使い始め、亡くなる昭和24年9月まで使い続けていたことがわかる。昭和18年の「道理貫天地」は、黒正の境涯にとって大きな意味を持つ。

この「道理」は、一般的な「①事物のことであり、物のりくつ。②人の必ず行ふべき正しい道。道義。」ではない。日本固有の文化、伝統的な創造精神、産の精神が含意されていたのである。これが、黒正の理解した日本の特殊性に基づいた「日本精神」であり、昭和12年頃には形成され、戦後の亡くなるまで変わらない。対比されているのは、欧米資本主義の機械的、計算合理的、営利的所有精神である。「道理貫天地」になぞらえれば、「合理貫世界」である。

大阪経済大学の建学の精神は、黒正巖博士のいう「道理貫天地」であり、混迷した21世紀の日本において再び甦らなければならない。

(詳しくは、徳永編「黒正巖と日本経済学」所収の拙稿「道理貫天地」考」を参照)

同窓会の個人情報保護に関する基本方針

大阪経済大学同窓会は会員相互の研鑽と親睦を図り、もって母校の発展に寄与することを目的として活動しており、それに必要な同窓生の個人情報をお預かりしております。

本会は個人情報保護の重要性を十分に認識し、「個人情報の保護に関する法律」に基づき個人情報の適切な利用と安全管理のために必要な措置を講じています。今後も個人情報保護への意識向上を計り、これらの情報の取り扱いについては、細心の注意を払いながら同窓会活動を進めてまいります。何卒ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

個人情報の取り扱いについて

1) 収集および利用

本会では下記利用目的に必要な個人情報(氏名、卒年、学部、学科、ゼミ、クラブ、自宅住所、同電話番号、勤務先など)を、引き続き最大限の注意を払いながら収集し、利用させていただきます。

2) 利用目的

本会は円滑な運営を図るための事業として以下の目的に収集した個人情報を利用しています。

- ・機関誌「澁江」ならびに情報紙「KEIDAI DAYS」の送付
- ・本部ならびに地域支部及び、ゼミ、同期生会、クラブOB会などが主催する行事の案内
- ・会費徴収にかかわる案内
- ・その他上記に関連する業務等

尚、2005年3月31日をもって同窓会名簿の販売および閲覧サービスは中止しております。

3) 安全管理措置

本会で保有する個人情報については、漏洩、改ざん、消失を防止するため安全管理に努め、必要な措置を講じます。とりわけ個人情報の処理を外部委託する場合は、信頼できる会社と機密保持契約を結んだうえで委託致します。

4) 共同利用

上記事業に際してその目的達成のために学校法人大阪経済大学との間で双方の保管する個人情報の一部について共同利用します。

5) 第三者提供

同窓会員からの照会については、所定の手続きの上、原則として被照会者の同意を確認したものに限り回答します。なお、個人情報の提供を望まない場合は、所定の手続きにて事務局に届けてください。

6) 届出、お問い合わせ先

常に正確で最新の内容に保つために、個人情報の変更(転居、転職、改姓等)があった場合には、速やかに同窓会事務局まで封書郵便、電話、FAXあるいはメールにてお知らせ下さい。

同窓会事務局

〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2-2-8

TEL 06-6328-2431

FAX 06-6328-4564

メールアドレス denko@osaka-ue.ac.jp

家族揃ってパソコン教室



受講を終え父親と二緒の小学校4年生(デジカメコース受講)と1年生(ワープロソフト受講)の姉妹に声を掛けると「面白かった」「お姉さん先生がローマ字を教えてくれたので、うまく勉強できた」とし、「来年も来たい」と口を揃える。また、奥さんと同伴の男性は「16回卒のOBですが、今年2回目。我々の時代からは想像もつかない立派な設備を利用させてもらって感激しております。来年はもう1ランク上のコースを受講したい。ぜひ頼みますよ」と、ご満悦の様子で帰路に着かれた。

同窓会・後援会主催の2005年度パソコン教室が、さる9月23、24、25日の3日間本学50周年記念館で開かれ、延べ517名の受講生がパソコンの使い方から比較的高度な技術まで幅広い分野にわたって学習しました。

このパソコン教室は、学習プログラムからテキスト制作、当日のレッスン、アドバイスまで、すべて学生によって企画、運営されており、今年で5年目。今年度のパソコン教室実行委員会の委員長を務める寺田裕君(経営学部2年)も「今年もパソコン入門コースからワープロソフト、表計算ソフト、はがき、デジカメの5コースを選択していただけるようにし、各コースに講師補助のSA(スチューデントアシスタント)を付け、行き届いた指導ができるようになりました。それにしても女性の受講生が多くなりましたね。それだけパソコンが一般家庭に普及してきたということでしょうか」と、名実ともに家族揃ってのパソコン教室にやる気満々。

学 歌

作詞 秋本吉郎
(元本学教授)
作曲 柴田南雄
(元東京芸術大学教授)

1.
大淀の 水は春ゆく
ゆたかな春だ
芽立つ葦原 緑が沁みる
この若さ
希望は明るい 蒼穹かけて
永遠の青春 みなぎる学園
大阪 大阪経済大学

2.
大樟の 蔭は裕々
夏風そよぐ
学徒師弟が 幹負いもちて
諸汗に
確かに植えた 融和の象徴
繁れ自由の 花さく学園
大阪 大阪経済大学

学園歌

作詞 黒正巖
(昭和商初代校長)
作曲 水野康孝
(元本学教授)

1.
商都の東北^{でんこう}江に
臨みて高く聳り立つ
我等が昭和学園は
産業日本を双肩に
担うて進む若人の
力の糧の広野原

2.
一千余年の其の昔
大隅の宮の在りませし
聖^{とうと}き跡の学園は
忠孝日本を心肝に
銘して学ぶ若人の
教えの道の元標^{もとしるべ}

3.
黒煙天をひた蔽い^{おおい}
船車^{はちまた}どよもす八衢を
静かに臨む学園は
科学日本の究明に
生命を注ぐ若人の
心の花の咲く園生^{そのふ}

逍遙歌

作詞 中村行男
(16回卒)
作曲 松川圭一
(15回卒)

1.
此処 城北に迎えたる
紺碧^{こんぺき}淀の春の夢
惜春^ふの賦のただよえば
薫風静かに流れ来て
逝^ゆきし苦節の十余年
歴史は吾等に教うなり

2.
水や濁れる人の世に
真理^{まこと}求めて遊ぶ子の
友愛^{くおん}久遠に変わるまじ
汝^なが悲しみに我は泣き
吾^わが喜びに君や舞う
惜^{はる}しみて励め我が青春を

3.
踏めば小草も柔き
弥生の庭に集い来し
我が学舎^{まなびや}の乙女子は
生命^{いのち}新たな此の曲に
花咲く野山^{のやま}花の下
声美しく歌うかな



でんこう
淀江
2005

■発行日 2005年12月20日
■編集 同窓会広報部
〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2-2-8 電話 (06) 6328-2431
■印刷 凸版印刷株式会社
〒553-8580 大阪市福島区海老江3-22-61 電話 (06) 6454-3256